

鑑馬  
別本抄録

三  
八  
千  
三  
十  
号  
青木印

子多  
1177  
2山





花廼家文庫



以元



紫香藏

十四卷系圖

卷之三  
三十八丁  
古字本  
同卷

開院在大長冬嗣公二男長良公二世之孫為隆之子

隆信

右馬權守右系大夫越前守若狹守  
上野外從四位下歌人似後名人元久三年正月

母若狹守親忠女

信實

左系權大夫似後書名人也歌人  
中務大輔正五位下 本隆實 法名寂西

母同隆範

為繼

從三位  
中務大輔

伊信

正四位下 右馬頭  
六十餘年

為信

從三位中務大輔  
刑部卿 為行

為理

從三位本為業  
早世

吉家信

山門法下  
三卷系苗後名久為信御子也トリ



後古今集

第十六 龜山帝 文永二年十二月廿六日

八十子孫のあまのりてをたす  
あまのりてをたすをたすひて後  
信実朝臣

つるのちまのふいひきぬりふまも  
よこしとあまのりてをたすひて後

後拾遺集

第十八 後宇多帝 弘安元年十二月廿三日撰成

信実朝臣 牙まうりて後まのり  
くはとあまのりてをたすひて後  
のちあまのりてをたすひて後  
藤原門院少将

くはとあまのりてをたすひて後  
くはとあまのりてをたすひて後

新拾遺集

第十五 後光厳帝 貞治三年四月廿日撰成

文永二年四月後深沢院にまけり  
世首 亦中に恨意 信実朝臣

いとけは我方のこころうけられ  
つるさくふくろのちもあ

東巖安禪師行實續傳書類 悟空和尚住庵問  
師在庫下曲掌事務茶藥湯菓隨時供給只  
憂事之不徧未始見惜容迎來送去問訊禮拜  
不失時節雖在背後踟躕而過允自讀經念佛  
至作唱伎樂人所樂聞見盡其精妙令其聞見門  
房初二月半雖為燒香禮拜來師辭遜而不受或  
有背後拜師擧頰曰某道德未克於何醉之况  
復和尚在此豈無畏難乎或時有圓覺經談悟空  
和尚坐主位講義師居賓位誦文縑素列座下  
其衆曰

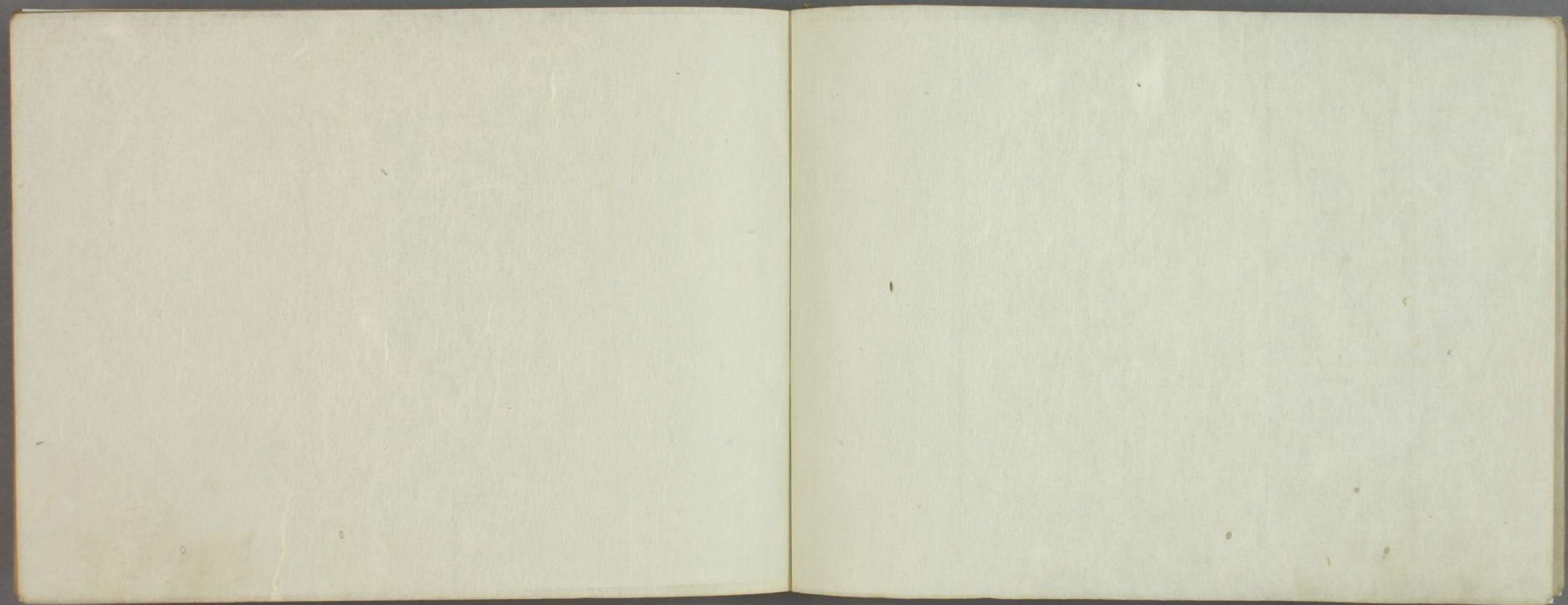
内大臣法印真助 大納言僧都道安  
中山大納言律師 山階侍從入道  
一條治部卿三位 肥前々司入道  
因幡前司 宰相法印信昌

東寺三位阿闍梨 此等皆門弟也  
自余道倍非純一信敬之人不輒預講席復畫悟  
空和尚頂相請自贊和尚引筆贊其語曰  
吾無法與人傳天是天地是地若安知箇中意  
首即自見矣允從欵尊至于徑山師範禪師五  
十四代道祐上人法嗣徑山吾嗣道祐上人東岩嗣  
吾佛々授乎祖々相傳的々無私繩々有準文永  
三年丙寅六月晦日福田庵主悟空 影刻法性寺信實入  
近衛北方攝政 兼平清書之











一 基光 覚

俗稱(十) 十四卷系高 琴卷之九  
本外(八) 世二丁ウラ  
尊卑分脈 古宮本 同卷辛八丁ウラ

大徳冠録是公四世魚名十代之孫

頼成 後五位上 越前守

基光 本盛光 信師 從五位上 兩河頭

珍海 三論宗 東大寺 已講 信師

行海 山門河内親

基光の白河帝義係の一人なり本朝高僧  
傳卷の二十丁の表に彼の珍海の基光の子  
甲く覚樹と云ふて其肯政を究む  
世人文殊の座代なりと云ふ仁平年中  
那院より信法師を奉じて勝經變行を海に  
とあり仁平の地傍帝の所居の寺なり  
是を以て相傳は其光白河帝より  
るべき人のいふに信師の寛弘に  
せり信師の寛弘一信帝の清寧より寛弘元



年より白川帝系保元と元七十年相争(保元平治の乱)其光を大徳冠七世良門九代之孫と云ふ隆徳と混雜せしむる其正其光も相成りて人の子あり隆徳も分服の或云清經人子と云ふは其光の子なり又相成りて人の子なり左記混交と云ふなり

卷十二

本朝高僧傳曰釋珍海廷臣園基光之子早

從覺樹究其肯綮器度清敏好問於人研核華嚴法相因明歷三會講每登師席詞鋒俊利莫敢當者時人念曰文殊應化仁平年中住禪那院講法華維摩手勝鬘經暨于暮年又修淨業撰淨土義私記決定往生集淨影義草珍善丹青與傳法院覺鑊有剝席之遇畫金剛界大日像以贈之云々

元亨釋書曰卷五釋覺鑊姓平氏肥之前州人將門

之屬胤也中康治二年十二月十二日卒年四十九

東寺長者補任後醍醐天皇

法印權大僧都行海法兼四年十二月十日卒七十二



一隆能 覺

俗稱(り) 十四卷系圖 卷之十 十六丁ウラ

本外(り) 尊卑分脈 古(り) 月卷(り) 四(り) 丁(り) 三(り) 丁(り)

大藏冠錄是公七世良門七代之孫

賴成 因幡守 從四位下 實者中務卿具平親王男也依親王命伊祐收養為子云々

清經 正五位下 左衛門佐

隆時 因幡守 秋人 正四位下 母信濃守平貞盛女

隆能 主殿頭 正五位下 画工 有子孫 出雲淡路守 母高階為行女 此本為清隆卿子傳事也

忠清 刑部少輔 正五位下 母同 永久三三出家卅八

隆重 政重 白川院 藏人







隆親の弟あり

同書より上古初の大岡と出づる忌寸氏雄略帝

以て注せり大さなる誤あり

姓氏録曰大岡忌寸出自魏文帝之後安

貴公大泊瀬幼武天皇諡雄略御世率四

衆歸化男龍一名善繪工小泊瀬權

鷓鴣天皇諡武烈美其能賜姓首五世孫

勒大壹惠尊亦工繪才天命開別天

皇諡天智御世賜姓後畫師亦高野天皇

神護景雲三年依居地改賜大岡忌寸

姓也とあり也大岡忌寸の姓を賜ひ

の惠尊あり雄略帝元年三百十三年

初後あり

同書より巨勢忌寸の初は惟久飛騨守俊久

惟久男と出せり巨勢系系は飛騨守惟久也

者あり 俊久ハ飛騨守巨勢宗久の男あり

巨勢系圖曰

巨勢金岡十五代孫佐所長者有久之舎兄

有茂德政守

後伏見院上北面

宗久武部皇孫

飛騨守院藏人院上北面

俊久泉永門院藏人

とあり 惟久ハ諸書より姓氏詳あり  
あり後三年の巻を画く記書せざる寺  
行伊とあり 此惟久も俊久といふ子あり  
とあり

同書より女の初は道長公女後一條女卿と出せり

後一條帝の中宮の威子あり 威子と稱せり

女流未きり

一代要記曰女御後三位藤威子前太政大

臣道長三女云々







けりむしはる形の障子を金園の書  
よりける云ことありこれ徳隆の書  
甚しき云くし一書守有房の巨勢家の入  
るらん又寛平年中にて金園の書  
障子を画くと出さぬとす未だ徳隆の  
所見なり其大平記より出さぬの事  
寛平年中よりりんえり其書守の障子  
より紫宸殿ニ被<sup>レ</sup>之ケル東ノノ間ニ馬周房  
玄齡杜如晦魏徵云て画圖ハ金園カ筆賛  
詞ハ小野道風カ書タリケルトツ兼ルと出さ  
ぬことあり枝桑畧記仁和四年九月十五日午  
二冠勅令画師巨勢金園画于御所南此東西  
障子令直方興基惟範時平朝臣等擇  
弘仁後鴻儒之堪詩者即令金園圖其  
狀矣とあり仁和四年ハ寛平元年の茶  
事なり又安見文中探出賢重障子を画く  
と出さぬ誤り寛政十戊午年將野

養川院の書上奇信の條 元如寛永十九壬午  
年月日おわぬありの林宗義書送学府  
草衣殿賢重障子画沙用お  
り朝の朝鮮人未貢の節に朝鮮国王  
と書く沙屋風沙画の作付お認せらる  
あり又寛政十一年己未年十二月將野祐  
清の書上安信の條 寛文三年六月林宗義  
送学府沙画沙用と行付の道中ノ馬周  
宗而の書上京仕の林宗義殿御書  
沙障子画其外沙画向沙画と付  
相和の心とあり





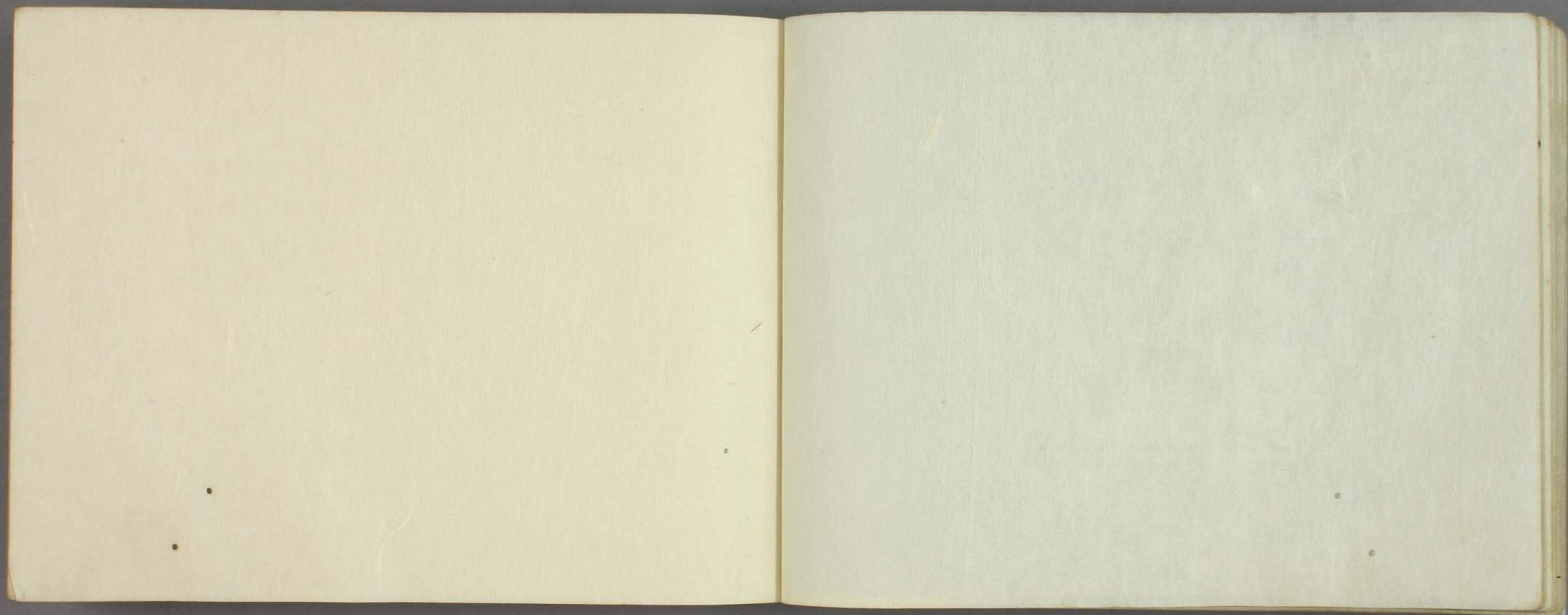


一朋輩

日能存系水石記 善徳四 年又良仁何年 善徳四 世 出揚七分藤  
八ノ 朋輩 善子セウキ下相授守官の道は母 善徳五 國 出揚  
明任 或明徳 善子セウキ下相授守官の道は母 善徳五 國 出揚  
全ク 又未以守 善子 京朋任男といふ事 善徳五 國 出揚  
朋輩の才 數是 善子 京朋任男といふ事 善徳五 國 出揚  
承元年 善子 京朋任男といふ事 善徳五 國 出揚  
善子 京朋任男といふ事 善徳五 國 出揚

善子 京朋任男といふ事 善徳五 國 出揚







以下  
3 丁  
白紙



一 基光を絵所元祖といふは、大間成文  
 抄云畫所昌泰二二讚岐少自從八位下  
 巨勢朝臣相覽師とありしは、基光ハ  
 堀河帝實治の年あり、醍醐帝の昌泰  
 二年よりおくること凡百九年あり  
 ありしを基光画所の元祖とす

基光

或書に大職冠七世良門九代孫画所元  
 祖從巨勢公持画傳基光 春日内匠頭

光親 古兵衛尉 長久頃 隆能 春日画所預主 寛弘頃

其意味より解るる基光は、清綱の子あり

大職冠鎌足七世良門九代之孫とあり

清綱の子あり良門九代之孫とあり

大職冠鎌足四世魚名十代一代之孫あり

越前守頼成の子あり基光隆能ともい

ふ北家の流あり別流あり混

基光にあまはるる基光の子光親其子  
 の隆能とありし言はるる尊卑分  
 脈曰 魚名 鷲取 藤嗣

高房 智泉 佐高 經臣















基光  
隆能

或書小大職冠七世良門九代之孫基光  
其子光親其子隆能春日画所親主  
應願寛治頃とあり  
誤りたり甚し隆能大職冠七世良門八  
代之孫清經の子あり尊卑分脈曰良門

利基 兼輔 雅正 為頼 伊祐  
清經

頼成 同備守 從四位下 實名中務卿具平親王  
男也依親王命伊祐收養為子  
隆時 正四位下 主殿頭 西工出雲  
同備守 淡路守母高階為行女清  
隆能 正五位下 刑部少輔  
母同永久三年三月出家於八とありて隆能

或書  
全元  
正  
誤

隆能の祖父頼成あり又隆能の父忠清  
あり頼成考ふに隆能ハ鳥羽帝隆能ハ  
人向ありされと忠清出家の年月あり  
且同あり大系圖曰忠清 永久元年二月  
あり隆能の祖父頼成あり考ふに  
清經の頼成實ハ具平親王御子頼成ハ  
政事あり



開子（右大臣師房公）具平親王四十七年  
母の清子なり本朝皇胤紹運録曰具平親王

二品中務卿 轉子女王 源師房 賴成（日）

身後四位下 同書（願注曰）親王日本紀略寛弘

六年七月廿八日二品行中務卿具平親王寛弘年

四十八又（師房）願注曰師房（補）攝補任美保

四年二月十七日寛弘七十とあり（一）尊卑

分脈曰具平親王（二品中務卿）寛弘

師房（徑二位）兼保 俊房（徑二位）保安二

賴成（同階守後位下）師房成の子清經其子の隆

能なり 師房公の子俊房公を凡清

經（同村代）後朱雀帝

長（寛弘）清經三十

年三月出宮（師房）天長仁

三年（天永）天永四年（水久）天永三年

或書（隆能）源氏（源氏）源氏

小巻物 詞 世尊寺伊房卿 牛巻極

たり（此）あり 其家

ハ尊卑分脈（世尊寺伊房）嘉保二

年九月十九日（慶長）源氏小巻物の

詞巻を伊房（以）年（嘉）とあり

つ（隆能）二十二年（天）あり

法（く）あり

〇（此）あり

七（七）あり

の（三）あり

さ（り）あり

房公（凡）あり

房公（凡）あり

房公（凡）あり

房公（凡）あり

房公（凡）あり

房公（凡）あり

房公（凡）あり

房公（凡）あり



隆親

或書云隆能の子隆親

春日 中務補と出せ  
大治頃

も號ハ為レリ尊卑分脈曰隆能

主殿頭  
隆能任下

隆親

隆五任下  
中務補

行智

繪師  
隆能任下

多し

初河

長門守  
隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

其以隆親

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能

隆能任下

隆能



光長

或書は隆親の孫光長

春日 越前守後醍醐天皇補  
画所獲 文治頃 親男

と出せり 隆親の孫 隆親は寂蓮雅

經の初書 西巻光長より多くあるを

以て見れば 後を以て 文治頃といふハ尤の

とみれども隆親の子とみせハ誤なり

尊卑分脈曰隆能 隆親 經隆

邦隆 とありて隆親の男に光長といふ人

あり 此外たゞあるまゝ隆親の男は光

長といふ者所見あり 何れの子か

さうあるハ古今著聞集 画圖 曰後白河院

法村年中行事を陰よかかれて御黄

紙のまき松殿をさされしより満りに

涉覧して僻るすは前にも押紙を

しててあやまちを法自筆とて志す

つけて返をせられたりるを法皇御覽

して法をまじらへりてまた勅定され

△又國書に  
年中行事  
後六十卷  
詞體傳  
雅經御  
春日光長  
とあり



万の人の自筆として押紙をなすは何れも此の如く  
 信を御成すは其の如くはるるよりしては  
 是に千室と成るるよりして蓮華王院の宝鏡  
 といふは其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 の画き一のや筆者名を記すは其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 ありてこれに光長の筆とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 河帝の光長とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 文治の五十五とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 光長とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 親とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 親の子とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 生れとありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 當とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 りとありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 画とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 先とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 是とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡  
 是とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

経隆

或書小光長の子経隆

春日 土佐権守後中務春隆

寛元 頃 土佐権守後中務春隆

春日改土佐と名乗るの書味は其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

源姓 土佐権守後中務春隆

名乗ると書くは其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

七姓の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

信名ありて土佐権守後中務春隆

才一経隆の光長の子にありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

邦隆 土佐権守後中務春隆

徳帝保延 土佐権守後中務春隆

れとありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

経隆の中年ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

守公俊女とありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

公俊の男公国ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

嫁ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

嫁ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

嫁ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

嫁ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

嫁ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

嫁ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡

嫁ありて其の如くはるるよりして蓮華王院の宝鏡



相公園の子公親公高公景三人より九條院判  
 官代高倉あり此より子隆隆の傳  
 帝の御侍集覽の中とあり可なり又近衛  
 帝久壽の御侍北條もいふ一尊卑合脈  
 良門系公輔曰公長公俊壹岐守公国播磨守  
 圖之系大學允公高同院判官代公景同院判官代

此公親の御侍院判官代とありたよりて  
 隆親より隆隆を勅老とあり  
 女院小傳曰九條院藤呈子近衛右太政大臣  
 伊通公女法性寺閨白為子母權中納言顯  
 隆女久安六二十六叙從三位十九四月廿八為  
 女御六月廿二為中宮久壽二八十五為尼  
 畧中安元二七八御事又中安元二七八御事此東  
 殿賢聖障子繪初寛平年中巨勢金岡  
 右傳小野道風 建長年中土佐権舟經  
 隆 正和年中土佐吉光 寛文年中將野  
 探幽 延宝年中同永真云々あり

此とあり  
 ありとあり  
 ありとあり  
 のこ

経隆建長年中迄存生覚未あり  
 一〇〇〇後深州帝建長  
 年中東安の事あり五二源保長寛  
 政生れとあり建長年中止り九十以  
 上ありおの建長年中の賢聖障子経隆  
 画きといふ温あり古今著聞集画圖  
 曰前文海鳥よとひるよとせるの障子を立て  
 又曰一海鳥の心を朝くぬひの初より形  
 の障子作り障子のよとせる將軍虎を  
 射する障子をとりけ校書殿は養  
 中基の障子を射する障子をあまたり  
 これを屏といつれの障子といふ事と  
 なる中緒といふおぼつかり 皇院  
 は大内を稱するものなりとせるの障子  
 並に中納言は書也障子あり沙汰なり  
 りける公四條院法母御園寺相公禪門  
 修理といふる母頭中將資重の朝中















又或書は正統年中書院に在りて書し  
隆隆三書と云ふ  
正統二年三月  
正統二年三月

其後ハ女院ハ傳曰殷富門院亮子 後鳥羽  
准母後白川第一女母從三位成子元播磨  
局字高倉三位久壽三四十九為内親王壽  
永元八十四為皇后宮文治三六廿八院号  
三建久三十一為尼建保四四一御事七十  
殷富門院建保四年四月二日山崩七十  
吉光を隆隆の子と云ふ見 文  
治建久は壯年と云ふ 伏見帝正應  
永元八十四吉光百十存  
頼のまゝと云ふ画者のまゝと云ふ考  
隆隆の子と云ふ考文  
或書ハ知恩院什物中巻傳内教段邦隆  
吉光ハ光頭ハ画師のまゝと云ふ時代更  
或書ハ知恩院什物中巻傳内教段邦隆  
吉光ハ光頭ハ画師のまゝと云ふ時代更

光頭

或書ハ吉光光頭王依權守 後越前守 貞和頃 隆兼男と云ふ

吉光の子ハ系ハ以てハ隆兼男と云ふ

又邦隆ハ画師のまゝと云ふ知恩院什物中巻傳内教段

傳内教段長隆ハ甲ハ巻傳内教段又吉光画師のまゝと云ふ知

恩院什物中巻傳内教段法然上人画傳の内内教段同系ハ

當麻寺奥院什物法然上人四十八巻傳一筆詞

後伏見院後二條院定成其外と云ふ物物

知恩院什物知寺社室物展關目録

四十八巻詞書合書 繪上依吉光筆 詞書伏見院後伏見院後

二條院三宸翰轉法輪三條實量公青蓮院尊

圓法親王世尊寺行尹卿同定成朝臣

姉小路廣流濟氏卿筆 外題尊圓法親

王真跡目録安井門主之則大僧正道忍筆下

王真跡目録安井門主之則大僧正道忍筆下































二男あり隆親の弟あり翁の隆親の弟を  
見し又同書に惟久飛騨守俊久惟命  
と云ふ也巨勢系圖曰

有茂隱岐守宗久飛騨守俊久泉本門院  
藏人

飛騨守惟久の諸書に其名ハ出ル  
姓自詳ありとあり此惟久も同  
俊久といふ子あり也其姓ハ老  
をいふ也押ありとあり此は  
こととありたあり宗家系ハ此  
宗家系ハ此宗家系ハ此宗家系ハ  
此宗家系ハ此宗家系ハ此宗家系ハ  
此宗家系ハ此宗家系ハ此宗家系ハ



光弘

或書に光弘より系圖として光弘中務丞 在任時

との一は行廣男と注しこれら光弘の書

子のものさしとせしと吉光名跡あり二つあり其

名を以てこれら吉光の子の書解かまけりせし

りく行廣の子の書と上げり光弘の子の書

とありて印して光弘の書とせしはよき行廣男

といふことあり行廣の二男なり

さある村の行廣車十太夫花園帝文保院

それ行廣五十五位なり一其の生れ行廣

とあり其後花園帝嘉曆行廣

六十五位行廣なり其の生れ光弘と

り後花園帝の嘉吉に凡る十五太

あり更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり

より更なる行廣行廣の二男なり



の洞書とありて光弘の九十五五七の所記此巻  
 なる洞書の見事と云ふ也 （存命の所記あり）  
 未だ見たり此画巻の事 （存命の所記あり） 寺社宝物展覧目  
 録 （存命の所記あり） 執金剛神縁起三巻 （同本大角） 八幡宮縁起  
 二巻二月堂縁起二巻 （右三條画何れとあり） 光弘  
 の法俗悪事 （俗悪不孝見） 此画巻光弘若く  
 あり

書上三巻五巻一四九

光周

或書云光弘の子光周 （刑部女輔） ともあり作  
 經院去光行光行藤光平光周と經院行  
 父子の明押村八村代 （又） 有命をいふ  
 或書云光弘の注子明徳行とあり （光弘）  
 此を中書といへ三十一軍位とあり村八光弘  
 の五十五子の内九位永十六七歳とありし  
 此光周生れしとあり （母） 善長父と光  
 弘の或書の注云善長とあり （又） 中書といへ  
 三十一軍位とあり （光弘） 此光弘の孫年 （光弘）  
 光弘の甲辰善長子とあり （光周） 光周生れし  
 年永十六七歳 （光弘） 此光弘の孫年 （光弘）  
 三十一位とあり （光弘） 其上月書の注云刑部女輔  
 とあり （光弘） 光弘の孫年とあり （光弘）  
 知事 （光弘） 早世と注し  
 あり （光弘） 村代と何年と上げ （光弘）  
 あり （光弘） 土佐系圖云光弘より光周と



ありて光周の事なり 此れは符命なり  
周の事なり 或は光周の事なり 光周の事なり  
通なり

廣周

或は光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり

光周の事なり 此れは符命なり  
光周の事なり 此れは符命なり







以後画業執行し乃流石藤原朝臣山川之曆景也  
 写一年日を以て得後行へ平後土佐家宗  
 其族之元信後土佐光信等臨中府  
 元信信所を預りし依る任趣前守中  
 永禄二己未年十月二十八日歳高病死仕不  
 ありし書考信の系之年月日不知不  
 十の依る家宗族之系 其年信所預り  
 中の依る 其任右近将監 藤原仙洞所  
 其事おわりの元和戊午年八月臨り病  
 死は四十八とありし先永を考へ今も  
 光信後よりして元信考信を信所預り土佐  
 宗族の依る系之信所預りし依る  
 其の基光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原とありし藤原一基光経隆の子孫  
 ありし其方の所を何年申すの所絶た  
 たりし藤原光経隆の用ひ巨勢家宅

永禄二己未年十月二十八日歳高病死仕不  
 ありし書考信の系之年月日不知不  
 十の依る家宗族之系 其年信所預り  
 中の依る 其任右近将監 藤原仙洞所  
 其事おわりの元和戊午年八月臨り病  
 死は四十八とありし先永を考へ今も  
 光信後よりして元信考信を信所預り土佐  
 宗族の依る系之信所預りし依る  
 其の基光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原とありし藤原一基光経隆の子孫  
 ありし其方の所を何年申すの所絶た  
 たりし藤原光経隆の用ひ巨勢家宅

藤原一基光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原とありし藤原一基光経隆の子孫  
 ありし其方の所を何年申すの所絶た  
 たりし藤原光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原一基光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原とありし藤原一基光経隆の子孫  
 ありし其方の所を何年申すの所絶た  
 たりし藤原光経隆の用ひ巨勢家宅

藤原一基光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原とありし藤原一基光経隆の子孫  
 ありし其方の所を何年申すの所絶た  
 たりし藤原光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原一基光経隆の用ひ巨勢家宅  
 藤原とありし藤原一基光経隆の子孫  
 ありし其方の所を何年申すの所絶た  
 たりし藤原光経隆の用ひ巨勢家宅







歷代編年集成云、永業七年三月廿八日、関白左大臣以辛治、別業為佛寺、平等院奉供、杖桑略記、榮花、物語同之

以呂波字類抄云、永業七年三月廿八日、供五間四面、東面、中尊、大日

阿彌陀堂 号鳳凰堂

寺說云、此堂、校漢例、兩樓、為翅、後樓、廊、為尾、棟、鍮金、鳳凰、雌雄、居之、隨風、舞、故曰鳳凰堂、

以呂波字類抄云、阿彌陀堂、天喜元年三月四日、甲辰、供、杖桑略記云、永業八年癸巳三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

百練抄云、永業三年十二月十日、関白供、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

一 永業保八年、供、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

一 丹羽氏、丹羽氏、後四位下侍、

一 権叙、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

一 光重、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

今の奥州三年、松の城、主丹羽氏、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

一 西行、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

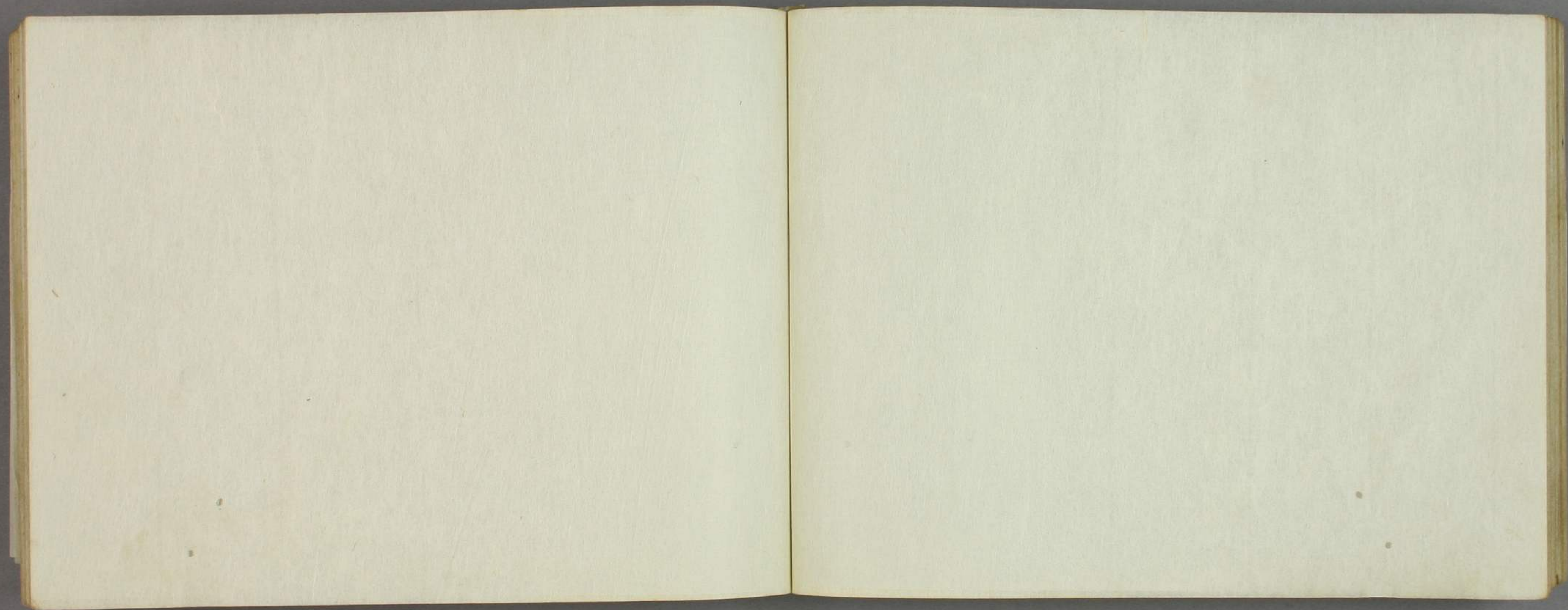
一 菅公、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々

一 延喜三年、杖桑略記云、永業八年、三月四日、甲辰、関白左大臣平等院内、建立大堂、安置丈六、弥勒佛像、云々











雄略帝二十二年

九月廿三日

い之部

清寧帝



白雉 五  
大化六年改元  
元康成十二年

は之部

白鳳 十四  
元壽  
千七百七十八



後園... 皇... 大永...

嘉永元年... 年数押元年数也

朱三付八祖...

は之部

白雉五 孝德帝 大化六年二月改元  
白鳳十四 天武帝 朱雉元年改元

仁之部

仁賢帝 十一 元成 顯宗四年正月即位  
仁壽三 元辛未 文德帝 嘉祥四年四月廿八日改元  
仁和四 元乙巳 光孝帝 元慶九年二月廿二日改元  
仁平三 元辛未 道衡帝 久安七年正月廿二日改元  
仁安三 元丙戌 六條帝 永萬三年八月廿七日改元  
仁治三 元庚子 四條帝 延應二年七月十日改元



長德、四 元乙未 一條帝 正曆六年二月十日改元  
 長保、五 元巳亥 因帝 長德五年正月十日改元  
 長和、五 元壬子 三條帝 寬弘九年十二月廿五日改元  
 長元、九 元戊辰 後一條帝 萬壽五年七月廿五日改元  
 長曆、三 元丁丑 後朱雀帝 長元十三年四月廿一日改元  
 長久、四 元庚辰 同帝 長曆四年十一月十日改元  
 長治、二 元甲申 堀河帝 康和六年二月十日改元  
 長承、三 元壬子 崇徳帝 天祿二年八月十日改元  
 長寛、二 元癸未 二條帝 應保三年三月廿九日改元  
 長祿、三 元丁丑 後花園帝 二康正三年九月廿八日改元  
 長享、二 元丁未 後土御門帝 文明十九年七月十九日改元  
 治安、三 元辛酉 後一條帝 寛仁五年二月二日改元  
 治承、四 元丁酉 高倉帝 安元三年八月四日改元  
 治暦、四 元己巳 後冷泉帝 康平八年八月二日改元  
 七百八十五年

十之部

保延、六 元乙卯 崇徳帝 長承四年四月廿七日改元  
 保元、三 元丙子 後白河帝 久壽三年四月廿七日改元  
 宝治、二 元丁未 後深州帝 寛元五年二月廿八日改元  
 宝徳、三 元己巳 後花園帝 文治六年七月廿八日改元  
 宝永、七 元甲申 東山帝 元祿十七年四月十三日改元  
 宝曆、十三 元辛未 桃園帝 寛延四年十月廿八日改元  
 保安、四 元庚子 鳥羽帝 元永三年四月十日改元  
 宝亀、十一 元庚戌 光仁帝 神護慶雲四年十月一日改元  
 早治、一 元己卯 二條帝 保元四年四月廿日改元  
 六百九十三年

十一之部

徳治、二 元丙午 後二條帝 嘉元四年十二月十日改元  
 五百四十四年

十二之部



應和 三 元辛酉 村上 帝 天德五年二月十日改元  
 應德 三 元甲子 白河 帝 永保四年二月七日改元  
 應保 二 元辛巳 後醍醐 帝 永曆二年九月四日改元  
 應長 一 元辛巳 花園 帝 延慶四年四月廿八日改元  
 應安 七 元戊申 後光嚴 帝 貞治七年二月十八日改元  
 應永 廿 元甲戌 後小松 帝 明德五年七月五日改元  
 應仁 二 元丁亥 後土御門 帝 文正三年三月五日改元

左之部

和銅 七 元戊申 元明 帝 慶雲五年正月十日改元  
 千百甲 四年

右之部

加之部

一 康保 四 元甲子 村上 帝 應和四年七月十日改元  
 二 康平 七 元戊戌 後冷泉 帝 天喜六年八月廿九日改元  
 三 嘉保 二 元甲戌 堀河 帝 寬治八年十二月十五日改元  
 四 康和 五 元己卯 同 帝 承應三年八月廿八日改元  
 五 嘉承 二 元丙戌 同 帝 長治三年四月九日改元  
 六 康治 二 元壬戌 近衛 帝 永治二年四月廿八日改元  
 七 嘉應 二 元己丑 高倉 帝 仁安四年四月八日改元  
 八 嘉祿 二 元乙酉 順德 帝 元仁二年四月廿日改元  
 九 嘉禎 三 元乙未 四條 帝 文曆二年九月十九日改元  
 十 康元 一 元丙辰 後深田 帝 建長八年十月五日改元  
 十一 嘉元 三 元癸卯 後二條 帝 乾元二年八月五日改元  
 十二 康安 一 元辛丑 後光嚴 帝 延文六年三月廿九日改元  
 十三 康曆 二 元己未 後園 帝 永和五年三月廿三日改元  
 十四 嘉慶 二 元丁卯 後小松 帝 至德四年八月廿三日改元  
 十五 嘉吉 三 元己巳 同 帝 嘉慶三年二月九日改元  
 十六 康應 一 元辛酉 後花園 帝 永享十三年二月七日改元  
 十七 嘉吉 三 元辛酉 後花園 帝 永享十三年二月七日改元



十 康正 二 元七亥 後花園帝 享德四年七月廿八日改元

嘉永 元戌申 今上 帝 弘化五年三月十五日改元

六〇 康永 三 元壬午 光明帝 曆應心五年四月廿七日改元

十口 嘉祥 三 元戊辰 仁明 南朝後村上 帝 興國四年七月 承和十五年六月十三日改元

よ之部

用明帝 二 元丙午 敏達帝十五年九月即位

大之部

大化 五 元乙卯 孝德帝 皇極帝四年七月改元

月之部

大宝 三 元辛丑 文武帝 同帝 五年三月廿日改元

大同 四 元丙戌 平城帝 延曆廿五年五月十八日改元

大治 五 元丙午 崇徳帝 天治三年正月廿日改元

大永 七 元辛巳 後柏原帝 永正十八年八月廿三日改元

れ之部

三 靈龜 二 元乙卯 元正帝 和銅八年九月三日改元

二 曆應 四 元戊寅 光明帝 建武五年八月廿八日改元

一 曆仁 一 元戊戌 四條帝 嘉禎四年十一月廿三日改元

了之部

フ之部

収之部

な之部



一 寬平 九 元巳酉 宇多帝 仁和五年四月廿七日改元  
 二 寬和 二 元乙酉 花山帝 永觀三年四月廿四日改元  
 三 寬弘 八 元甲辰 一條帝 長保六年七月廿日改元  
 四 寬仁 四 元丁巳 後一條帝 長和六年四月廿三日改元  
 五 寬德 二 元甲申 後朱雀帝 長久五年十月廿四日改元  
 六 寬治 七 元丁卯 堀河帝 應德四年七月七日改元  
 七 寬喜 三 元巳丑 後堀河帝 安貞三年三月五日改元  
 八 寬元 四 元癸卯 後嵯峨帝 仁治四年二月廿六日改元  
 九 觀應 二 元庚寅 崇光帝 貞和六年二月廿七日改元  
 十 寬正 六 元庚辰 後花園帝 正平五年四月廿四日改元  
 十一 寬永 廿 元甲子 明正帝 長祿四年十二月廿一日改元  
 十二 寬保 三 元辛酉 櫻町帝 元和十年二月晦日改元  
 十三 寬政 十 元巳酉 光格帝 元文六年三月三日改元  
 十四 寬文 十二 元辛丑 後西帝 天明九年五月十一日改元  
 十五 寬延 三 元戊辰 桃園帝 萬治四年四月廿五日改元  
 十六 皇極 三 元壬寅 三百年 延享五年七月廿五日改元  
 十七 皇極 三 元壬寅 三百年 舒明帝十四年正月十五日即位

く之部

養老 七 元丁巳 元正帝 聖德太子三年十月十一日改元  
 養和 一 元辛丑 安徳帝 治承五年七月十四日改元  
 萬壽 四 元甲子 後一條帝 治安四年七月十三日改元  
 萬治 三 元戊辰 後西帝 明曆四年四月十三日改元

や之部

皇代記  
 一 顯宗 三 元乙丑 八十八年 清和帝六年正月即位  
 二 繼體 廿五 元丁亥 十三百四十五年 其後九年三月即位五年之後  
 三 慶雲 四 元甲辰 文成帝 大正四年五月十日改元  
 四 建曆 二 元辛未 順徳帝 承元五年三月九日改元  
 五 建久 九 元庚戌 後鳥羽帝 文治六年四月十一日改元

け之部



十六、**建仁**、三  
元亨四年 土御門帝 正治三年二月十三日改元  
六百三十八年

十八、**建長**、七  
元己酉 後深州帝 宝治三年三月十八日改元  
六百三十九年

十九、**建治**、三  
元乙亥 後宇多帝 文永十二年四月廿五日改元  
六百七十五年

二十、**乾元**、一  
元壬寅 後二條帝 正安四年十一月廿二日改元  
六百八十四年

廿一、**建武**、四  
元甲戌 後醍醐帝 建武三年正月廿九日改元  
六百八十八年

廿二、**建德**、二  
元庚戌 南長慶帝 建德三年正月廿九日改元  
六百九十年

廿三、**慶長**、九  
元丙申 後陽成帝 文祿五年十一月廿七日改元  
六百九十五年

廿四、**享和**、一  
元甲子 同二帝 弘長四年二月廿八日改元  
六百九十八年

廿五、**文和**、二  
元丁巳 花園帝 正和六年二月三日改元  
六百九十九年

廿六、**文和**、三  
元壬辰 後光嚴帝 觀應三年九月廿七日改元  
七百零一年

廿七、**文中**、三  
元壬子 南朝後村上皇 正平七年四月十四日改元  
七百零三年

廿八、**文安**、五  
元甲子 北朝後圓融帝 應安五年七月廿七日改元  
七百零五年

廿九、**文正**、一  
元丙戌 後土御門帝 寬正七年二月廿八日改元  
七百零七年

三十、**文明**、六  
元己丑 同二帝 二應仁三年四月廿八日改元  
七百一十二年

三十一、**文龜**、三  
元辛酉 後柏原帝 明德十年三月廿九日改元  
七百一十四年

三十二、**文祿**、四  
元壬辰 後陽成帝 天正廿年十二月八日改元  
七百一十六年

三十三、**文化**、十五  
元甲子 光格帝 享和四年二月廿七日改元  
七百一十八年

三十四、**文政**、十二  
元戊寅 仁孝帝 文化十五年四月廿二日改元  
七百三十四年

十六、**建仁**、三  
元亨四年 土御門帝 正治三年二月十三日改元  
六百三十八年

十八、**建長**、七  
元己酉 後深州帝 宝治三年三月十八日改元  
六百三十九年

十九、**建治**、三  
元乙亥 後宇多帝 文永十二年四月廿五日改元  
六百七十五年

二十、**乾元**、一  
元壬寅 後二條帝 正安四年十一月廿二日改元  
六百八十四年

廿一、**建武**、四  
元甲戌 後醍醐帝 建武三年正月廿九日改元  
六百八十八年

廿二、**建德**、二  
元庚戌 南長慶帝 建德三年正月廿九日改元  
六百九十年

廿三、**慶長**、九  
元丙申 後陽成帝 文祿五年十一月廿七日改元  
六百九十五年

廿四、**享和**、一  
元甲子 同二帝 弘長四年二月廿八日改元  
六百九十八年

廿五、**文和**、二  
元丁巳 花園帝 正和六年二月三日改元  
六百九十九年

廿六、**文和**、三  
元壬辰 後光嚴帝 觀應三年九月廿七日改元  
七百零一年

廿七、**文中**、三  
元壬子 南朝後村上皇 正平七年四月十四日改元  
七百零三年

廿八、**文安**、五  
元甲子 北朝後圓融帝 應安五年七月廿七日改元  
七百零五年

廿九、**文正**、一  
元丙戌 後土御門帝 寬正七年二月廿八日改元  
七百零七年

三十、**文明**、六  
元己丑 同二帝 二應仁三年四月廿八日改元  
七百一十二年

三十一、**文龜**、三  
元辛酉 後柏原帝 明德十年三月廿九日改元  
七百一十四年

三十二、**文祿**、四  
元壬辰 後陽成帝 天正廿年十二月八日改元  
七百一十六年

三十三、**文化**、十五  
元甲子 光格帝 享和四年二月廿七日改元  
七百一十八年

三十四、**文政**、十二  
元戊寅 仁孝帝 文化十五年四月廿二日改元  
七百三十四年

三十五、**弘和**、三  
元辛酉 朝後龜山帝 天授七年正月改元  
七百三十八年

三十六、**弘仁**、十四  
元庚寅 嵯峨帝 大同五年九月廿九日改元  
七百四十二年

三十七、**興國**、六  
元乙未 南朝後村上皇 延元元年正月改元  
七百四十四年

三十八、**弘治**、三  
元乙卯 北朝光明帝 應德三年正月改元  
七百四十六年

三十九、**弘治**、三  
元乙卯 後奈良帝 天文廿四年十月廿三日改元  
七百四十八年

二之部  
弘和、弘仁、興國、弘治

皇代記  
編年記  
皇年  
弘和、弘仁、興國、弘治







皇代記  
編年記  
皇年代名元

文保二 元丁巳 花園帝 正和六年二月三日改元  
 文和四 元壬辰 後光嚴帝 觀應三年九月廿七日改元  
 文中三 元壬子 南朝後村上帝 正平七年七月廿四日改元  
 文安五 元甲子 北朝後圓融帝 應安五年七月廿七日改元  
 文正一 元丙戌 後土御門帝 寬正七年二月廿八日改元  
 文龜六 元辛酉 後柏原帝 明應十年二月廿九日改元  
 文祿四 元壬辰 後陽成帝 天正廿年十二月八日改元  
 文化十 元甲子 光格帝 享和四年二月廿七日改元  
 文政十二 元戊寅 仁孝帝 文化十五年四月廿三日改元

弘和 三 元辛酉 朝後龜山帝 天授七年二月十日  
 弘仁 十四 元庚寅 嵯峨帝 大同五年九月廿日改元  
 興國 六 元壬辰 南朝後村上帝 延元五年四月廿八日改元  
 弘治 三 元乙卯 後奈良帝 天文廿四年十月廿三日改元

皇代記  
編年記  
皇年代名元

武烈帝八 元乙卯 千禧五年  
 文武帝十 元丁酉 五年天皇 應永元年四月廿日改元  
 文治五 元乙巳 後鳥羽帝 元曆二年八月十四日改元  
 文曆一 元甲午 四條帝 天福二年十一月五日改元  
 文應一 元庚申 龜山帝 正元二年四月十三日改元  
 文永十一 元甲子 同三帝 弘長四年二月廿八日改元

弘長四年二月廿八日改元

皇代記  
編年記  
皇年代名元

弘和 三 元辛酉 朝後龜山帝 天授七年二月十日  
 弘仁 十四 元庚寅 嵯峨帝 大同五年九月廿日改元  
 興國 六 元壬辰 南朝後村上帝 延元五年四月廿八日改元  
 弘治 三 元乙卯 後奈良帝 天文廿四年十月廿三日改元

皇代記  
編年記  
皇年代名元

弘和 三 元辛酉 朝後龜山帝 天授七年二月十日  
 弘仁 十四 元庚寅 嵯峨帝 大同五年九月廿日改元  
 興國 六 元壬辰 南朝後村上帝 延元五年四月廿八日改元  
 弘治 三 元乙卯 後奈良帝 天文廿四年十月廿三日改元



六 弘化 四 元甲辰 仁孝帝 元保十五年十二月廿日改元  
三 弘長 三 元辛酉 龜山帝 文應二年二月廿日改元  
元成實 後宇多帝 建治四年二月廿九日改元  
元百七十四年

以之部  
十七 延曆 廿 元壬戌 桓武帝 天應二年八月十九日改元  
元百一十一年 昌泰四年七月十五日改元  
十八 延喜 廿三 元辛酉 醍醐帝 延喜廿三年閏正月十日改元  
元百一十四年 元百一十五年

十九 延長 八 元癸未 同 天應二年八月十九日改元  
元百一十八年 元百一十九年  
永祚 一 元丙戌 後冷泉帝 安寬德三年四月十四日改元  
元百一十二年 元百一十三年

四 永承 七 元己酉 後三條帝 治曆五年四月十三日改元  
元百一十四年 元百一十五年  
五 永保 三 元辛酉 白河帝 承曆五年二月十日改元  
元百一十七年 元百一十八年  
六 永長 一 元丙子 堀河帝 嘉保三年正月十七日改元  
元百一十九年 元百二十年

七 永久 五 元癸巳 鳥羽帝 天永四年七月十三日改元  
元百二十三年 元百二十四年  
八 永治 一 元辛酉 崇德帝 保延七年七月十日改元  
元百二十四年

十 永萬 一 元己酉 二條帝 長寬三年六月五日改元  
元百八十二年 元百八十三年  
十一 延應 一 元巳亥 四條帝 曆仁二年二月七日改元  
元百八十四年 元百八十五年  
十二 永仁 六 元癸巳 伏見帝 正應六年八月五日改元  
元百九十年 元百九十年

十三 延慶 三 元戊申 花園帝 德治三年十月九日改元  
元百九十四年 元百九十五年  
十四 延元 三 元丙子 後醍醐帝 建武三年二月廿九日改元  
元百九十六年 元百九十七年  
十五 延文 五 元丁卯 後光嚴帝 文和五年三月廿八日改元  
元百九十八年 元百九十九年

十六 永和 四 元乙卯 後圓融帝 上德安八年二月廿七日改元  
元百九十九年 元百一十年  
十七 永德 三 元辛酉 同 康曆三年三月廿四日改元  
元百一十一年 元百一十二年  
十八 永享 十二 元巳酉 後花園帝 弘和元年三月廿四日改元  
元百一十二年 元百一十三年

十九 延德 三 元己酉 後土御門帝 長享三年八月廿日改元  
元百一十四年 元百一十五年  
二十 永正 十七 元甲子 後柏耆帝 文龜四年二月晦日改元  
元百一十六年 元百一十七年  
二十一 永祿 十二 元戊午 正親町帝 弘治四年二月廿八日改元  
元百一十八年 元百一十九年  
二十二 延寶 八 元癸丑 靈元帝 寬文十三年九月廿一日改元  
元百二十年 元百二十一年  
二十三 延享 四 元甲子 櫻町帝 寬保四年二月廿一日改元  
元百二十二年 元百二十三年  
二十四 永曆 一 元庚申 二條帝 平治二年正月十日改元  
元百二十三年

元百一十一年 元百一十二年 元百一十三年 元百一十四年 元百一十五年 元百一十六年 元百一十七年 元百一十八年 元百一十九年 元百二十年 元百二十一年 元百二十二年 元百二十三年 元百二十四年 元百二十五年 元百二十六年 元百二十七年 元百二十八年 元百二十九年 元百三十年 元百三十一年 元百三十二年 元百三十三年 元百三十四年 元百三十五年 元百三十六年 元百三十七年 元百三十八年 元百三十九年 元百四十年 元百四十一年 元百四十二年 元百四十三年 元百四十四年 元百四十五年 元百四十六年 元百四十七年 元百四十八年 元百四十九年 元百五十年 元百五十一年 元百五十二年 元百五十三年 元百五十四年 元百五十五年 元百五十六年 元百五十七年 元百五十八年 元百五十九年 元百六十年 元百六十一年 元百六十二年 元百六十三年 元百六十四年 元百六十五年 元百六十六年 元百六十七年 元百六十八年 元百六十九年 元百七十年 元百七十一年 元百七十二年 元百七十三年 元百七十四年 元百七十五年 元百七十六年 元百七十七年 元百七十八年 元百七十九年 元百八十年 元百八十一年 元百八十二年 元百八十三年 元百八十四年 元百八十五年 元百八十六年 元百八十七年 元百八十八年 元百八十九年 元百九十年 元百九十一年 元百九十二年 元百九十三年 元百九十四年 元百九十五年 元百九十六年 元百九十七年 元百九十八年 元百九十九年 元百一十年







皇代記

三〇口貞亨、四 元甲子 靈元帝 百六十一年

三五△天智帝、十 元壬戌 天智帝 百九十九年

女之部

天智帝八年為元年八月廿三日改元  
繼體帝二十二年 皇孫中  
宣和元年即位

一 安閑帝、二 元卯寅 天武帝 百三十四年

康保五年八月十三日改元

二 安和、二 元庚辰 冷泉帝 八百八十四年

承安五年七月廿八日改元

三 安元、二 元乙未 高倉帝 六百七十七年

明和九年十月六日改元

四 安永、九 元壬辰 後桃園帝 七百七十四年

嘉祿三年十二月十日改元

五 安貞、二 元丁亥 後堀河帝 六百二十五年

古之部

欽明帝、世 元庚申 天武帝 百三十二年

宣化帝四年十月一日即位 皇孫為  
寶德四年七月廿五日改元

一 亨德、三 元壬申 後花園帝 百三十四年

大承八年八月廿日改元

二 亨祿、四 元戊子 後崇長帝 三百二十四年

正德六年六月廿二日改元

三 亨保、廿 元丙申 中御門帝 百三十四年

寬政十三年三月廿日改元

四 享和、三 元辛酉 光格帝 百三十四年

天養二年七月廿二日改元

五 久安、六 元乙丑 近衛帝 七百零九年

仁平四年十月廿八日改元

六 久壽、二 元甲戌 近衛帝 六百九十八年

皇代記

雄略帝、廿三 元丁酉 天武帝 百三十九年

女之部

安原帝三年十一月十三日即位 皇孫為  
三年

明德、四 元庚午 後小松帝 二百九十二年

三原應二年九月廿六日改元

一 明應、九 元壬子 後土御門帝 三百零九年

○延德四年七月十九日改元

二 明曆、三 元乙未 後西帝 百九十九年

○延應四年四月十三日改元

三 明和、八 元甲申 後櫻町帝 百九十九年

○寶曆十四年六月十九日改元

之部

一 舒明帝、十三 元己丑 天武帝 百三十二年

推古帝二十六年二月即位 皇孫為  
元年

二 朱鳥、一 元丙午 天武帝 百六十六年

白鳳十五年改元

三 神龜、五 元甲子 聖武帝 百七十二年

養老八年二月四日改元

四 神護、三 元丁未 福徳帝 百七十八年

○神護三年八月十八日改元

五 慶雲、三 元庚寅 仁明帝 百七十八年

○天長十一年正月三日改元

六 承和、十四 元丁未 仁明帝 百七十八年



五 昌泰 三 元成平 醍醐三帝 寬平十年八月十日改元  
 九百五十四年  
 七 承平 七 元承平 朱雀帝 延長九年四月廿六日改元  
 九百五十八年  
 八 治安 三 元承平 後條帝 寬仁五年二月二日改元  
 八百九十九年  
 八 承保 三 元承平 白河帝 延久六年八月廿三日改元  
 七百八十四年  
 治曆 四 元承平 後醍醐帝 康平八年八月二日改元  
 七百八十四年  
 九 承曆 四 元承平 白河帝 承保四年十月十七日改元  
 七百七十九年  
 十 承德 二 元承平 堀河帝 永長二年十月廿一日改元  
 七百五十五年  
 十一 承安 四 元承平 高倉帝 嘉應三年四月廿一日改元  
 六百九十九年  
 十二 承元 四 元承平 土御門帝 建永二年十月廿五日改元  
 六百四十四年  
 十三 承久 三 元承平 順德帝 建保七年四月十二日改元  
 六百三十九年  
 十四 至德 三 元承平 後小松帝 永德四年二月廿七日改元  
 四百六十四年  
 十五 承應 三 元承平 後光明帝 應安五年九月十八日改元  
 三百九十九年  
 十六 持統 十 元承平 天武帝 天武天皇二年為元年五年正月即位  
 千六百六十五年  
 十七 壽永 二 元承平 安徳帝 美長和二年五月廿七日改元  
 六百七十九年

皇天傳記  
 敏達帝 十 元壬辰 欽明帝 世三年四月四日即位  
 千三百八十年

白皇天傳記  
 二 宣化 四 元丙辰 世之部 安閑帝 二年七月即位  
 千三百一十年  
 十七 齊衡 三 元甲戌 文德帝 仁壽四年十一月廿九日改元  
 九百九十九年  
 五 正治 二 元巳未 土御門帝 建久十年四月廿七日改元  
 六百五十二年  
 六 正嘉 二 元巳未 後深州帝 康元二年三月十四日改元  
 五百九十九年  
 七 正元 一 元巳未 同帝 正嘉三年三月廿六日改元  
 五百九十九年  
 九 正安 三 元巳未 後伏見帝 永仁七年四月廿五日改元  
 五百五十七年  
 十 正和 五 元壬子 花園帝 應長二年三月廿日改元  
 五百四十四年  
 十二 正慶 一 元壬子 光嚴帝 元祿二年四月廿日改元  
 五百一十一年  
 十三 正平 五 元壬子 後村上帝 興國七年七月廿日改元  
 四百九十九年  
 十五 正保 四 元甲辰 後光明帝 寬永廿一年十二月十六日改元  
 二百九十九年

皇天傳記  
 一 清寧 五 元庚申 一條帝 雄略帝 二十四年正月三日即位  
 千三百一十年  
 三 齊明 七 元庚申 一條帝 白雉六年正月即位  
 千九百九十九年  
 四 正曆 五 元庚申 一條帝 永祿二年十一月七日改元  
 八百九十九年  
 八 正應 五 元甲子 後醍醐帝 弘安十一年四月廿八日改元  
 五百六十四年  
 十二 正中 二 元甲子 後醍醐帝 元亨四年十二月九日改元  
 五百三十九年  
 十五 正長 一 元甲子 後醍醐帝 應永世五年四月廿七日改元  
 四百三十九年  
 十八 正德 五 元甲子 兩門帝 宝永八年四月廿五日改元  
 百三十九年



五 昌泰 三 元成平 醍醐三帝 寬平十年八月十日改元  
 九百五十四年  
 七 承平 七 元承平 朱雀帝 延長九年四月廿六日改元  
 九百五十八年  
 八 治安 三 元安 後條帝 寬仁五年二月二日改元  
 八百九十九年  
 八 承保 三 元甲寅 白河帝 延久六年八月廿三日改元  
 七百八十四年  
 九 承曆 四 元丁巳 白河帝 承保四年十一月十七日改元  
 七百七十九年  
 十 承德 二 元丁丑 堀河帝 永長二年十一月廿一日改元  
 七百五十五年  
 十一 承安 四 元平介 高倉帝 嘉應三年四月廿一日改元  
 六百九十九年  
 十二 承元 四 元丁卯 土御門帝 建永二年十月廿五日改元  
 六百四十四年  
 十三 承久 三 元巳卯 順德帝 建保七年四月十二日改元  
 六百三十二年  
 十四 至德 三 元甲子 後小松帝 永德四年二月廿七日改元  
 四百六十四年  
 十五 承應 三 元辰 後光明帝 慶安五年九月十八日改元  
 三百九十八年  
 十六 持統 十 元丁亥 千六百六十五年  
 元壬寅 安德帝 美和二年五月廿七日改元  
 六百七十九年  
 皇承元  
 乙之部  
 敏達帝 十 元壬辰 千三百八十年  
 欽明帝 世 元 四月四日即位

皇承元  
 乙之部  
 敏達帝 十 元壬辰 千三百八十年  
 欽明帝 世 元 四月四日即位

皇承元  
 世之部  
 宣化 四 元丙辰 千三百一十六年  
 元甲戌 文德帝 仁壽四年十一月廿九日改元  
 九百九十九年  
 十七 齊衡 三 元巳未 土御門帝 建久十年四月廿七日改元  
 六百五十二年  
 十五 正治 二 元丁卯 後深州帝 康元二年三月十四日改元  
 六百九十五年  
 十六 正嘉 二 元巳未 同帝 正嘉三年三月廿六日改元  
 五百九十九年  
 七 正元 一 元巳亥 後伏見帝 永仁七年四月廿五日改元  
 五百五十二年  
 九 正安 三 元壬子 花園帝 應長二年三月廿日改元

皇承元  
 世之部  
 崇峻 五 元戊申 千三百六十四年  
 元癸丑 崇峻帝 崇峻五年十月即位同十月  
 千三百五十九年  
 推古 六 元 千三百五十九年  
 崇峻帝 崇峻五年十月即位同十月  
 千三百五十九年

皇承元  
 世之部  
 崇峻 五 元戊申 千三百六十四年  
 元癸丑 崇峻帝 崇峻五年十月即位同十月  
 千三百五十九年  
 推古 六 元 千三百五十九年  
 崇峻帝 崇峻五年十月即位同十月  
 千三百五十九年



土佐家廿代

基光

(後五位上) 内匠頭 中と盛光繪師 上應徳頃

舟頼成の四男なり

○尊卑分脈 卷九 後拾遺性生傳上三段

隆能

後五位下 主殿頭 繪師 嘉承頃

門伏清綱の男なり

○尊卑分脈 卷十 同右寫本 日本朝

隆親

後五位下 中務少輔 保延頃

皇胤紹運録

口日本紀略 卷六 口公卿補任 年傳

光長

後四位下 刑部大輔 文治頃

古今著聞集

十一 年中行幸画卷

慶恩

口古今著聞集 十一

行長

口古今著聞集 十一

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二

同卷二



經隆 從五位下 左衛督守 承安頃  
從五位下 務少辨隆親の弟列 尊卑合賦 卷十  
口女院小傳 口五著聞集十一

邦隆 從五位下 皇前守 安元頃  
從五位下 中務少辨隆親の二男列 尊卑合賦 卷十  
口女院傳

長隆 從五位下 左近衛監 法名 法蘭 弘安頃  
其父詳列 口土佐系圖

長章 其父詳列

隆相 從四位下 刑部少輔 其父詳列

吉光 從四位下 刑部少輔 正安頃  
其父詳列 法然上人傳

光秀 飛騨守 其父詳列 土佐系圖

隆兼 從五位下 其父詳列 土佐系圖

相保

隆盛

光正 從五位下 越前守 其父詳列

光顯 從五位下 越前守 德治頃  
其父詳列 土佐系圖

永春 大文法服画師 應永頃  
其父詳列 融通念佛緣起

寂濟 前繪所預散位前兵部少輔入道 應永頃  
其父詳列 融通念佛緣起 常樂記

隆光 從五位下 法服画師 應永頃  
其父詳列 融通念佛緣起

光國 前繪所預散位前兵部少輔入道 應永頃  
其父詳列 融通念佛緣起

行光 從五位下 越前守 延文頃  
其父詳列 土佐系圖



行廣

從五位上右近將監法名徑先 應永頃  
其父詳多 〇融通舍律緣起。教言卿記

光重

正五位下越前守  
其父詳多 〇土佐系國 明德頃

行秀

從四位上大藏大輔繪所預  
其父詳多 〇融通舍律緣起。土佐系國

行盛

●光國

嘉吉頃

廣周

從五位上彈正忠法名經增

長祿頃

光信

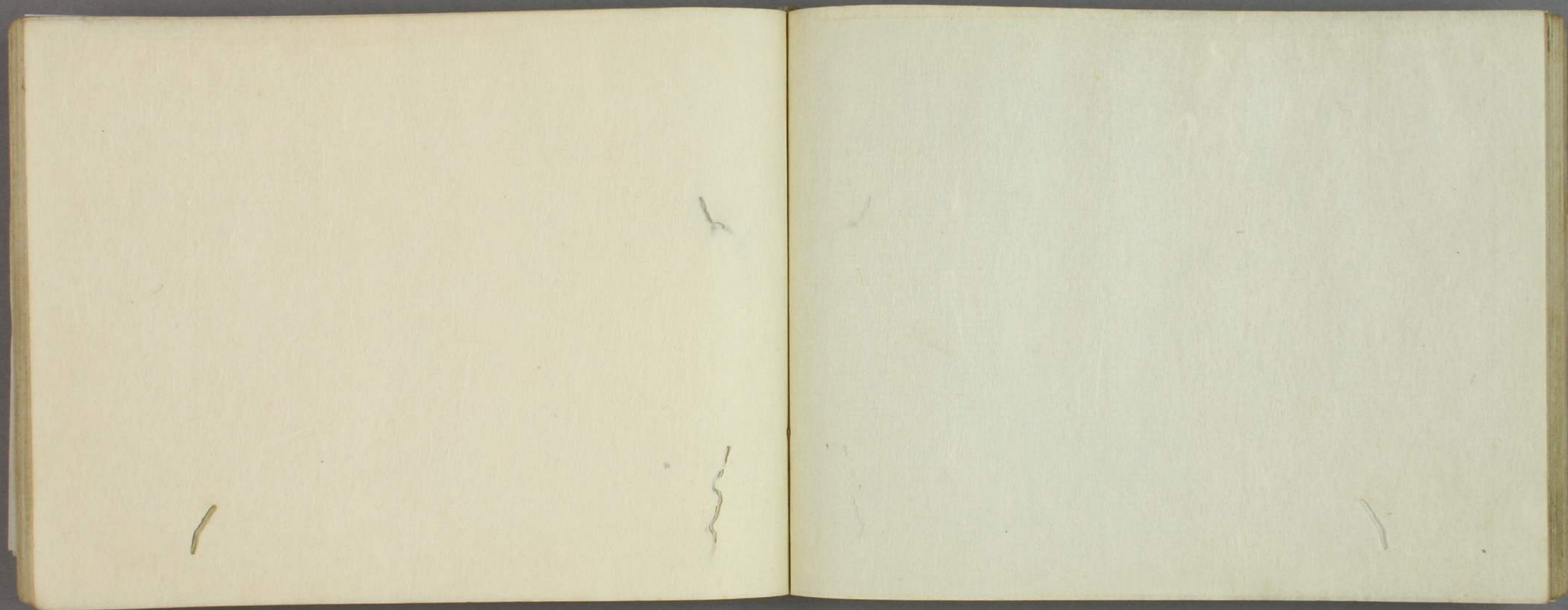
從四位下刑部大輔  
其父詳多

永正頃

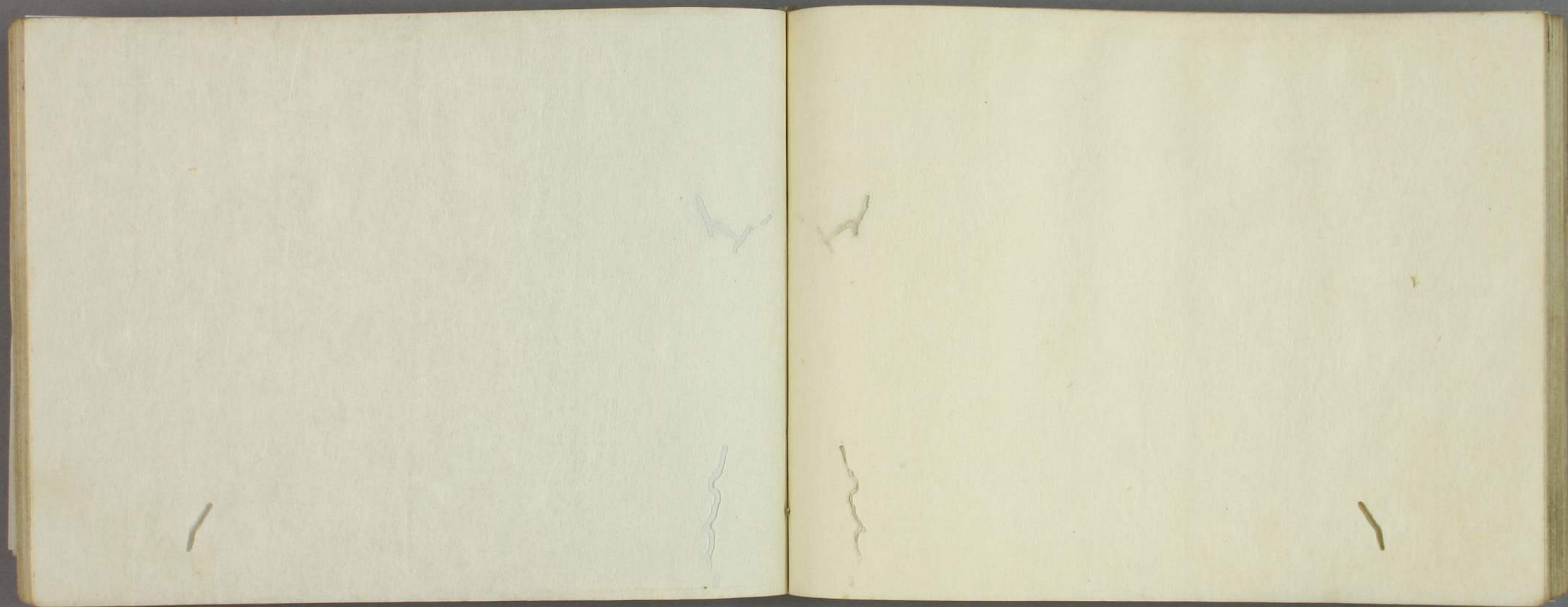
光茂

從四位下刑部大輔  
其父詳多 〇元太記。土佐系國  
天文頃











那二之介

嵯峨帝

嵐山切  
紺紙金泥書

白川帝

丹波切  
天地壇宇朱印

後多利帝

水吉切

土御門帝

阿波切

白川帝

六波羅切  
白紙金字  
天地

後白川帝

藤原切  
天地  
金字

後多利帝

清水切

後深州帝



丁未年五月  
六月十日  
新植順

Handwritten notes on the right page, including names and dates, arranged in a structured list. Some entries include small sketches of plants or figures.

五月十日  
五月十一日  
五月十二日  
五月十三日  
五月十四日  
五月十五日  
五月十六日  
五月十七日  
五月十八日  
五月十九日  
五月二十日  
五月二十一日  
五月二十二日  
五月二十三日  
五月二十四日  
五月二十五日  
五月二十六日  
五月二十七日  
五月二十八日  
五月二十九日  
五月三十日

Handwritten notes on the left page, continuing the list from the right page. The text is organized into columns and includes various names and dates.

五月三十一日  
六月一日  
六月二日  
六月三日  
六月四日  
六月五日  
六月六日  
六月七日  
六月八日  
六月九日  
六月十日  
六月十一日  
六月十二日  
六月十三日  
六月十四日  
六月十五日  
六月十六日  
六月十七日  
六月十八日  
六月十九日  
六月二十日  
六月二十一日  
六月二十二日  
六月二十三日  
六月二十四日  
六月二十五日  
六月二十六日  
六月二十七日  
六月二十八日  
六月二十九日  
六月三十日



















九條道通  
 ○二條良基  
 二條尹房  
 一條兼良  
 ○一條內基  
 ○久我通親  
 ○久我長通  
 ○轉法滿公忠  
 德大寺公維  
 今川晴季  
 少野道風  
 ○行成  
 ○源俊賴  
 ○清輝  
 ○良經  
 ○定家  
 ○藤原光俊

九條幸家  
 二條持通  
 △二條康道  
 一條教房  
 ○藤原基忠  
 ○久我通雄  
 轉法滿公教  
 ○西園公直  
 ○大炊師門冬忠  
 ○紀貫之  
 ○三後佐理  
 ○公任  
 ○清輔  
 ○俊忠  
 ○俊成  
 ○家隆  
 ○兼光

西行

○世尊寺行能  
 世尊寺定成  
 世尊寺行房  
 世尊寺行忠  
 世尊寺伊俊  
 △中院通村  
 △中院通躬  
 西三條公條  
 西三條實隆  
 柳原量光  
 鳥丸光康  
 △鳥丸資慶  
 甘露寺元長  
 △阿野實顯  
 ○法米谷實秋  
 ○小倉實名

寂蓮

世尊寺經朝  
 ○世尊寺經尹  
 ○世尊寺行尹  
 中院通為  
 △中院通純  
 西三條實澄  
 西三條公國  
 △日野弘資  
 柳原資定  
 △鳥丸光廣  
 甘露寺親長  
 勸修寺尚顯  
 姉崎基綱  
 法米谷公松  
 橋本公夏



四條隆重

△松母并雅親

△松母并雅世

山科言國

持明院基春

△富弘秀直

五條為学

弘誓院教家

三條家実住

△本幡雅冬

△武者小弘実法

頼阿

○慶運

寂惠

徹書記

道春

利休

○松母并雅有

△松母并雅章

△松母并雅俊

松本宗綱

南家高倉範久

竹屋光忠

○松原忠嗣

○松母并言師賢

海住山高清

薄以猪柳

○寂然

淨辨

兼好

○克孝

正廣

道三

能阿孫

金共宗和

△片桐石州

△依之布

松花堂

張即之

趙子昂

同

裏

小堀遠州

△小堀格十郎

鳥羽宗慶

本阿孫光悦

鳥羽宗晰

○吾備

○魚養

○傳教

○至宝

○慈惠

解脱

日蓮

○遊行二世

○一休

古岳

○鎌足

○菅家

○空海

○慈覺

○惠心

○明惠

○圓光

○性空

○大炊

春浦



古溪

△江月

○一山

南禅寺

大愚

妙心寺

南化

席関

妙心寺

鉄山

廣徳寺

△豚玄

○大支坊覚明

仁和寺道永

尊園

青蓮院道圓

青蓮院尊純

曼珠院慈運

聖護院覚譽

大覚寺義俊

○為子家

△玉堂

大徳寺

△一溪

南禅寺

村庵

東海寺

景南

相国寺

横川

相国寺

中正

建仁寺

坐仰

○香積寺石屏

○楊清軒玄惠

○仁和寺法守

○青蓮院祐助

△青蓮院了應

妙法院覚胤

△曼珠院覚恕

聖護院満意

○一孝院良譽

為氏

○二條為世

二條為定

二條為兼

二條為冬

○二條為右

冷泉為相

冷泉為尹

冷泉為益

下冷泉為高

源兼法師

高雲軒明融

○民部卿局

阿佛

法皇御院

勾當内侍

種冊

徒殿

種冊

於政

二條為兼

○二條為明

○二條為重

○二條為忠

二條家俊

冷泉為秀

冷泉為廣

下冷泉持為

覚源法院

西南院覚家依正

○小大君

坊門局

法皇御院

勾當内侍

種冊

勾當内侍

△小野通女

○清盛

常徳院義尚



大智院義規  
秀吉

○今川了俊  
經冊北条氏直

東常縁  
東家綱

細川玄旨  
蜷川親當

二階堂政行  
伊勢貞宗

蒲生頼秀  
尾形宗朝池田正能

岩山尚宗  
永原永運

○津守國夏  
法名室密安富國房守  
千義同

光德院義輝

武田信玄  
今川範政

安宅冬康  
東常和

細川持之  
細川三高

蜷川親元  
杉原賢盛

大銀尚氏  
經冊十市遠忠

方穂章棟  
河田玄清

山崎宗鑑  
○津守國冬

○南家清範

○荒苗守武

○信寛  
○海

△清宗  
万松院永宗

三井寺持教  
築屋軒宗長

月慈  
行助信都

宗砌  
宗牧

平田墨梅  
宗梅

貞徳

○壽晚

△豐統秋  
淨華院向阿

△全口宗弘  
同果居士

源仲元政  
宗祇

牡丹流  
兼載

經冊專順  
經冊宗養

廣幢  
紹巴



衣笠家良

清文序切  
三行世長

美里山房

山田切  
三行世長

後藤有光

村井切  
三行世長

日野俊光

千枝切  
四半  
五合

藤原信実

栗河切  
力十卷初切

中山定宗

宮崎切  
四半  
初古今

三條實任

淡路切  
四半  
古今

華室光俊

芝山切  
四半  
古今

中院通方

吉田切  
六行世長

河室房

笠原切  
三行

六条有忠

慶安切  
天地二行  
三行

烏丸資任

三河切  
四半

勸修寺經成

日向切  
力十行長

四條隆信

八咫切  
四半

園基氏

本宮切  
四半  
古今



名物部

一 重武 大和切

一 後三宗 後波切

一 後光嚴

一 二條良基 皇切

一 聖白基忠 大后切

一 公我通親

一 轉運福公忠

一 大炊内公忠

一 佐理 通切

一 公任

一 清輔 内子表切

一 後忠 三條殿切

〇 後多岐

一 光嚴 六條切

一 宗子 四辻切

一 一条内基

一 公我通親 新山切

一 公我長通 安藝切

一 西園寺公家

一 紀貫之

一 行成

一 源信賴 东大寺切

一 同 同

一 后重 良隆



一 修成 日野切

一 宗院 石井切

一 慈能 及井切

一 世号 行能 那智切

一 清水石室

一 石室并雅有 八幡切

一 甲古油之師賢

一 唐及通 一ノ切

一 古備 虫喰切

一 定家

一 為東光俊 右馬切

一 寂蓮 右馬切

一 日行俊 牛ノ切

一 一之宮實名 伊勢切

一 松殿忠嗣 伊予切

一 寂然 村雲切

一 覺孝

一 菅家 河内切

一 傳教 燒切

一 惠心修介

一 兼惠高 横川切

一 世道行

一 大炊七所 佐保切

一 一山

一 大友坊覺明 飛騨切

一 仁和寺法守親王 松尾切

一 為家 大平切

一 為所 朝倉切

一 為忠 三井寺切

一 源兼清

一 氏今 秋篠切

一 平相國 藤島切

一 今川了俊 伊豫切

一 月圓夏 七尾切

一 一休

一 善禪石屏

一 持法新玄惠

一 与道流祐助 鳥山切

一 為世 五條切

一 為重 逆也切

一 為右

一 小古君

一 坊川局 小松切

一 源三信教 三井寺切

一 侍守圓光 伊豫切

一 南宗法範 世一教の牛尾極札



壽院法所

一 伏見

三福印

— — — — —

— — — — —

後拾遺

一 八條智忠

一 二條康道

一 今昔物語

一 法橋

一 中流通打

一 日通純

一 日通躬

一 西三条実院

一 日公條

一 日公国

一 日実條

一 日輝弘治

一 日資廣

一 日資廣

一 河津実顯

一 尾山并雅章

一 日祥世

一 富小政秀直

一 木幡雅冬

一 武吉政実彦

一 山崎種子

一 伏下布

一 王室

一 以月

一 一溪

一 村尾

一 琢玄

一 一了即

一 覚怒心

一 通女

一 白當内侍

一 定庵

一 室内卿

一 小徳氏直

一 備前新左衛門

一 豊筑後純林

一 心教

一 清宗

一 心教

一 寺順



口持、古字一本より清經子舎兄とありてその隆  
時の舎兄といふを考へ此のころより其の似たり

これと長長の筆とす所は後白河は是れは兼光の  
比を考へて画くことありしやと考へたり  
ありし

嬰木欽  
州化尾

芳菊

一 月仁海の年の年より改元口為授養の  
木 郡人也 善信院僧

一 惠心淨都 寛仁元年六月十日寂  
和書四ノセリ源信 善書 寛仁年中 中年の田部院

一 寛欽 保延六年九月十五日化八十八  
十四卷三ノ九下 日保延中 中年の源院 善徳 康和

年契  
○寛仁元年八月長和六年四月十三日改元あり

一 仁海 寛仁元年八月  
東寺長者補任

寛欽

前大僧正寛欽  
一天台座主記 保延六年庚申九月十五日入滅八十

惠心 寛仁元年八月  
前権少僧都源信

一 僧綱補任 寛仁元年六月十日和服終時春秋七十

元亨和書丁亥云和源信云 建中院僧都 寛

仁元年六月十日寂七十六とありしは同院僧

の天元永観年中のいふを考へたり  
寛仁元年八月長和六年四月十三日改元ありし  
源信の寛仁元年八月とありしは同院僧とあり



一 勘通念佛縁起奥書

右此大念佛乃後は鎮西上人の發願より勸進  
せしむるに依りて念佛縁起を隨喜をなすべしとて開板  
せしむるに依りて願ひは善根の功力を以て善  
く父母六親眷屬乃玉無過乃群衆木前々  
安養乃淨刹小住生世む教白

明德二年

初夏二十七日權律師殊運

在山西塔位侶正行坊

二 應永二十一年五月六日

依鎮西上人所勸進書之公心

至やうちん上人乃すめふりく乃ち此  
るんゆう院の法に免けちるん小物七城  
るやけりぬあり

木う忍い廿四日八十月廿三日

山宗賢門院

土佐行廣

教言卿記云應永十四丁亥九月二日孝  
繼朝臣末妙音天拜見殊勝之處此  
奉了信ハ西園寺妙音也秘本也  
而今川入道与之丈夫故孝  
重三位写之奉了孝繼朝臣出  
之間信不土佐物也行廣写出  
之可秘之持者也

應永十五年七月四日庚戌還  
城樂之扇カク土佐物也  
行廣書之  
又採桑老扇記之



季子英 安倍

華業ヲキナリ

教言卿記云永十五年十月十六日柘尾  
 宮舞<sup>三卷</sup>借<sup>上中下</sup>給也急<sup>三</sup>可<sup>三</sup>写也廿三日  
 成<sup>成</sup>成<sup>成</sup>舞<sup>成</sup>借<sup>成</sup>給也季子英  
 少<sup>少</sup>写也十一月一日己<sup>己</sup>給<sup>給</sup>具<sup>具</sup>未<sup>未</sup>買<sup>買</sup>寄  
 也季英見調<sup>調</sup>二日丙午季英來<sup>來</sup>給<sup>給</sup>  
 季也五日己酉季英來<sup>來</sup>給<sup>給</sup>出<sup>出</sup>之<sup>之</sup>六日  
 庚戌季英今日壬午給<sup>給</sup>色<sup>色</sup>許<sup>許</sup>之七日  
 辛亥季英來<sup>來</sup>給<sup>給</sup>彩色<sup>彩色</sup>也  
 八日子<sup>子</sup>季<sup>季</sup>給<sup>給</sup>給<sup>給</sup>季英給  
 姊也<sup>也</sup>与<sup>与</sup>引<sup>引</sup>拍<sup>拍</sup>五十<sup>五十</sup>足<sup>足</sup>比<sup>比</sup>真<sup>真</sup>了<sup>了</sup>

尊卑分脈

五ノ一丁ナ  
九ノ北平ナ

大織冠鎌足 内大臣

不比等 從二位

房前 從三位

魚名 正三位 左大臣 号川邊大臣

鷺取 從五位下 中務少輔

藤嗣 從五位上 右衛門督

高房 正四位下 越前守

智泉 正五位下 播磨守

佐高 從五位上 大學頭

經臣 正五位下 肥前守

元命 從五位下 尾張守

賴方 從五位下 石見守

賴成 從五位上 越前守

基光 從五位上 内通頭 本盛光



同書

五ノ二丁キ  
十ノ十五丁六

大織冠鎌足

内大臣

不比等

後二位 右大臣

房前

後三位

真植

正三位 大納言

内磨

後三位 右大臣

冬嗣

正二位 左大臣

良門

内舍人

兼基

後四位 右中將

兼輔

後三位 兵衛佐

雅正

後五位 刑部兼補豐前周防守

為頼

後四位 丹波守 攝津丹波守

伊祐

後四位 周禮守 讃岐阿波信濃守

頼成

後四位 目掃守

清綱

正五位下 左衛門佐

隆能

正五位下 主殿頭 為清隆卿子僻事也  
或云清經舍兄云々正説歟

経隆三入用

著聞集

十一ノ  
二丁キ

前文 海島より松馬とせるの倭子を立て又四  
 畧 海島の水邊の物ぐれぬの希も馬形の倭子傳  
 陣の知の上も子將軍を虎を射る倭子を  
 ぶせりけ校書殿より書由基が孫を射る  
 倭子成るなりこれこれの流村より  
 事をなす中將のついでおつたが 采院  
 は大内成るのれは後よせるの倭子兼も子  
 將軍養由倭子ぶが沙汰なりを倭子を  
 四束の院流村の西園寺相本道の修理せし  
 れるも中將の黄季下と起てまこれ  
 一いつし真事には倭子の信か其略居  
 居の所倉子を信か其建長遠内表  
 の村信本の預承のか賢守のみ房信かを  
 もこよりきれば取出しめかせしれなり  
 ありし倭子の倭子を金園の書より下畧

隆能



光長入用

古写本  
著聞集 十一、  
十三丁キ

後白河院清母年中行事を信よか  
湯堂祝のあまうり松殿(をきり)水  
りりこ清は法流して僻事あり  
は押紙をしてそあやまちを法自筆  
あるしついで返をせられたり  
皇法流して信を多く細さ法きた  
勅定これほい人の自筆より押紙  
志るためい形もまて信を細  
軍もまてい事よりして信を  
實と成りてて道華皇院の宝  
こゝれありや押紙を  
みま事あり

寂濟入用

常樂記

群書本雜三訂五百十三、五十四丁

應永三十一年庚辰二月二日寂濟入道所往生

行隆邦隆入用

古写本

尊卑分脈 魚名系圖、  
北三丁ウラ 曰

極本

同書 卷九ノ魚名系圖、  
十三丁ウラ 全

不用

公仲

公俊

公國

公清

公國

公清

同書

良門系圖、  
十一丁オモテ

同書

卷十良門系圖、  
五丁オモテ

鎌足公七世良門七代之孫

公輔

公長

公俊

公國

公信

公信

公親

公高

公景

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成

公成



賴成入用

本朝皇胤紹運錄曰 群書本六十七中  
三十八丁才七

村上天皇御子  
具平親王 二品中務卿号千種殿後中書王  
是也母庄子女王代明親王女

博子女王 亦官

源師房 從一位右大臣云々

賴成 因隨守後四下為讚岐守伊祐  
子改姓

女子

女子

同書頌注日本紀畧寬弘六年七月廿八日二品行中務

卿具平親王薨年四十六

同書同注師房據補任兼保四年二月十七日薨七十

尊卑分脈 卷三  
二十七

村上三河御子 号千種殿  
二品中務  
和漢字人号後中書王  
寬弘六年七月十七日薨  
八十八

具平親王 母女御在子代明親王女

師房 右大臣從一位 本名實定為宇治關白子  
寬仁十四年六月賜源朝臣兼保四十二依病去表  
同日被還表任左大臣兼執宣即刺薨七  
十七云々

賴成 月備守後四下  
為伊祐子改姓

女子

女子

俊房 左大臣從位 保安二廿五出家寂後八十七同  
母角白通長 十一十二並死号堀川九大臣

一遊行草子

袖之物

奧書極

書所預土佐左近衛將監長隆筆

北代孫

從四位上左侍藤原光貞實定 光貞  
下

自昔日記記定之者八巨勢  
有字三由

廣周入用

京都將軍家譜 卷上  
三十六丁才 義教 治世

永享五年四月廿一日將軍家親筆應神  
天皇繪緣起詞三卷神功皇后二卷以被  
寄進於河内國譽田社



史料 村上天皇事記  
道風

日本紀畧曰十二月日正四位下内藏頭小  
野朝臣道風卒 七十一〇按神皇正統錄  
和漢合運圖中抄為元年  
帝王編年記小野氏系圖新札往來為今年  
而皆不注月又按系圖為行年六十三今據本  
朝文粹所載天德二年款狀推  
之今年方七十三兩說共有所失

小野氏系圖文明本云道風康保三  
年六十三

- 一 枝桑畧各記
- 一 藏補任
- 一 官職秘抄
- 一 小右記
- 一 枝桑畧各記 延長四年
- 一 帝王編年記
- 一 兼評記
- 一 夜部抄
- 一 系圖大伴傳
- 一 天德三年外記 天德四年
- 一 本朝文粹
- 一 日本紀畧
- 一 天德三年八月十六日關行幸畧記
- 一 一枝桑畧各記 天德四年
- 一 濫觴抄 湖上軒
- 一 西宮記 系圖
- 一 古今著聞集
- 一 江談抄
- 一 學究抄 卷九
- 一 系圖雜事記
- 一 異制度往來
- 一 遊學往來
- 一 權記 長保二年
- 一 河海抄
- 一 尺素往來
- 一 本朝神仙傳
- 一 神明鏡
- 一 淳平盛衰記
- 一 政事要由 安弘四年
- 一 後撰集
- 一 後醍醐集

嵯峨清涼寺什物勘迴念仙画卷後作爲書

系後所預散位藤原朝臣

系兵部補入道寂濟 初段

後師粟田口氏初法眼隆光 三段下段

系後所備後守藤原光國 四段五段

画師土佐守 上段

画師大支法眼・水春 上段

春  
後所預仲理亮藤原行秀 下初段二段三段四段

画工土佐守藤原行廣 下八段

夫日 驗記  
延文二年



一 豐成 官身分脈 卷八 下

贈大臣不比等公男  
武智磨

豐茂

内舎人兵部丞從一位正二

中衛大將右大臣母從五位下  
安部真康女 異本云母從五位下真若吉云云早羅波大  
臣又号横佩塩内之故也 天平初獲九十一廿七並元六  
十二年平定字元七月二日坐車 左澤大宰貞外師同  
八年六月歸再為右大臣

女子

當麻寺曼陀羅  
本願号中將姬

一 常盤

九條院の雜仕 左馬頭義朝の妻  
後平相國の妾とあり知子村より  
身を信 十九女の村より日毎此三十三禮の  
重箱を寫し 中よりしと云

一 覺超 高僧傳 長元某年正月正心逝

一 續日本紀 卷第九

大岡の寸引  
曰高野帝 神護景雲三年五月甲午左京人正六位上倭畫師種麻呂等十八人賜姓大岡忌寸

一 清和夜抄

一 建礼門院の事 抄葉松葉集系系弟  
右京大夫  
の巻 右京大夫と申せり 左門の命

一 群書類後

後六十下卷十丁表後小松院ノ頭注  
和長卿記一休和尚者後小松院落胤也世尤  
知之人紹偵和尚者則宗純和尚實子也  
法之正傳實之親子奇哉偉哉



皇代記 世三讀院是也  
崇徳天皇 諱顯仁鳥羽第一子母待賢門院  
璋子白河院御猶子實公實卿女 治

十八年 天治二大治五天養一元永二年已  
長兼三保延六永治一

癸五月廿八日癸酉申時誕生云々

保安四年二月十九日癸卯即位 保安五年  
四月三日

庚戌改元 依即位也 永治元年十二月七日奉未讓位

保元々年七月十二日依天下乱御出家 八

同廿三日奉讚岐国長寛二年八月廿

六日山朋于讚岐国 年四十六去  
位廿四年

杖桑拾葉集系圖卷云俊成初名顯廣正三位皇太  
后宮大夫保元二年奉教撰于載集安元二年九月廿  
八日出家法名親阿元久元年十一月晦亮年九十一

按俊成以元久元年九十一歳前ハ永久二年  
山宗御弟ニ先々生ニシテ六年ナリ  
同帝崩御ノ年俊成以五十一歳ナリ

後中  
一五十七  
一六十一

十七  
十七

隆昌 中務卿隆盛 一國隆昌  
隆昌 隆昌 隆昌 隆昌

邦貞 邦貞 邦貞 邦貞

實朝公 實朝公 實朝公 實朝公

冷泉 冷泉 冷泉 冷泉

白の御名 高氏 華行書入

一 隆昌 隆昌 隆昌 隆昌

一 隆昌 隆昌 隆昌 隆昌

一 隆昌 隆昌 隆昌 隆昌

一 隆昌 隆昌 隆昌 隆昌

中白 隆昌 隆昌 隆昌

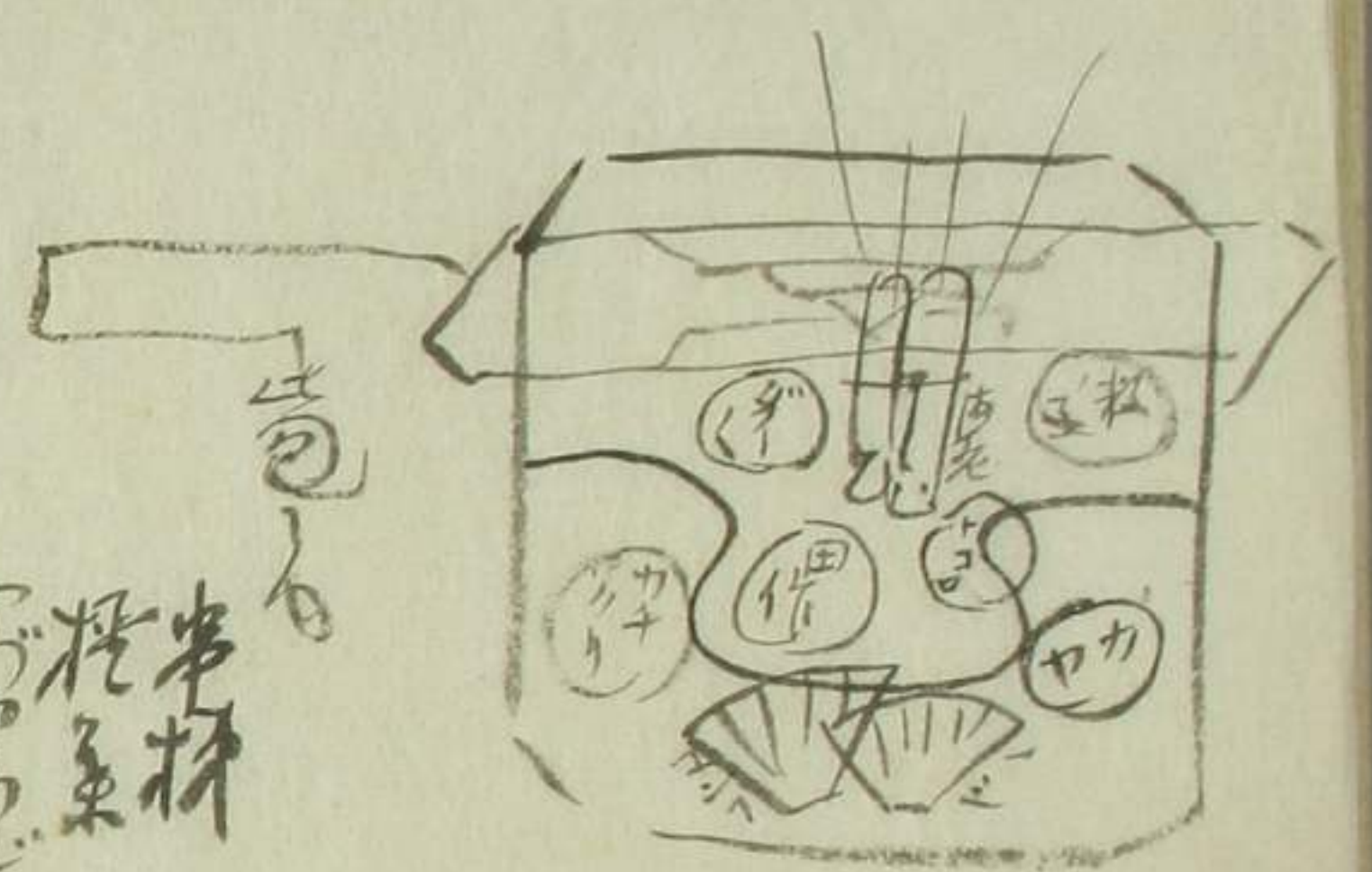
隆昌 隆昌 隆昌 隆昌

隆昌 隆昌 隆昌 隆昌

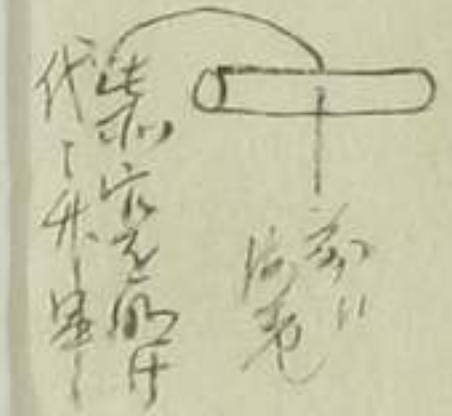


一 井上友貞  
淡  
正親町公道

官章



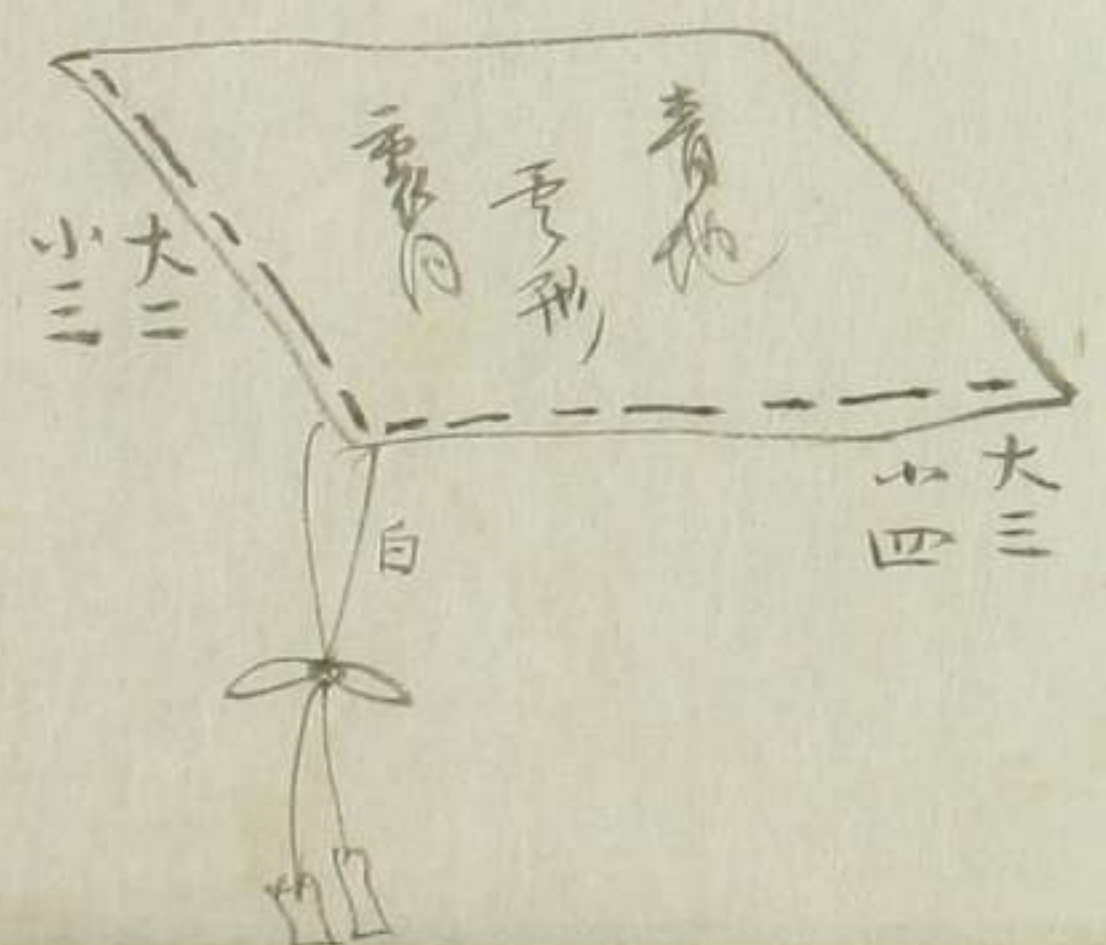
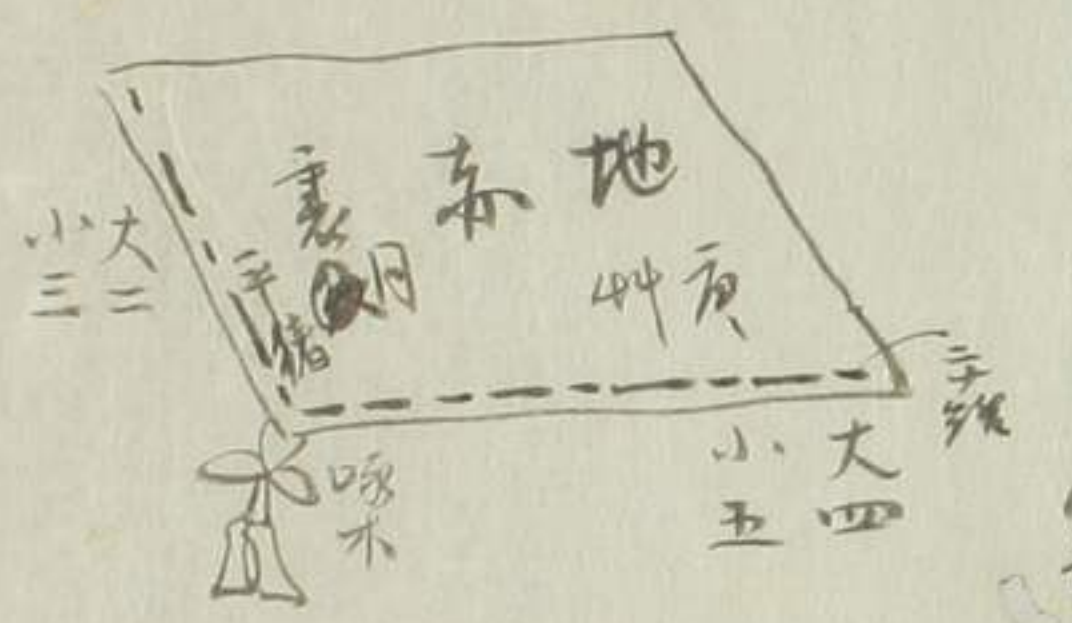
木三信  
相和  
七かう千  
桂系  
串材



代一升年

書秋本君  
佛一升筒寺若  
七年一寸片版外  
法  
右の升筒は  
有言片ス

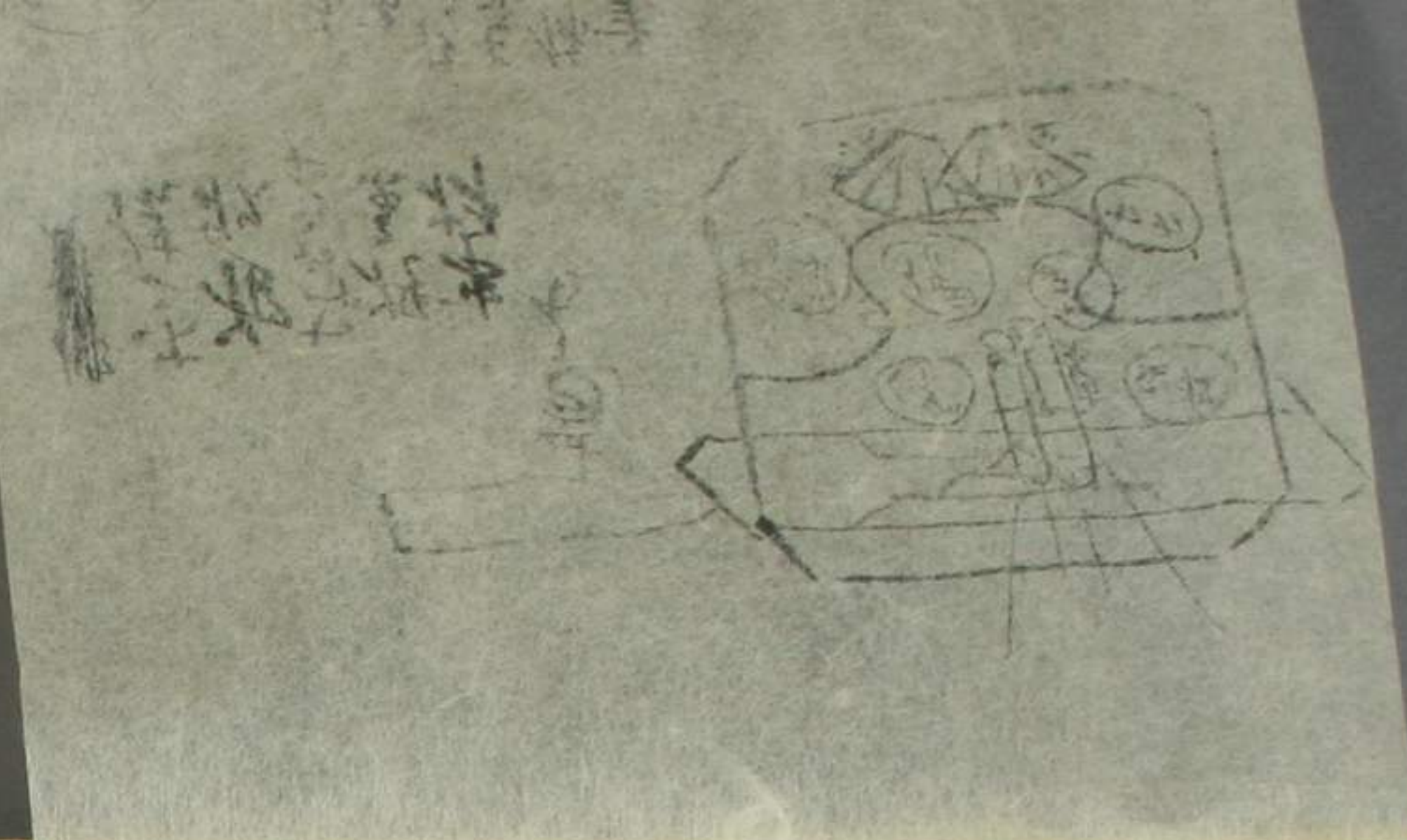
一 踏足机 花足机  
表裏トナリ



一 世代集帳

一 古今一後撰一拾遺一後拾遺一詞苑  
一金葉一千載一新古今  
右八代集帳  
一新初撰一後後撰一後古今一後拾遺  
一新後撰一玉葉一後千載一後拾遺  
一新初撰一新千載一新拾遺一新後拾遺  
一新後撰  
九十三代集帳





一 訶黎勒囊

一天緒 丈四尺 八尺寸 但房四  
 一口緒 七尺 但房共房三寸

一 日別制

一大緒 丈四 一丈四  
 一口緒 口口 一丈四  
 金花山十界 同果 房  
 右安土宗 官福 米者

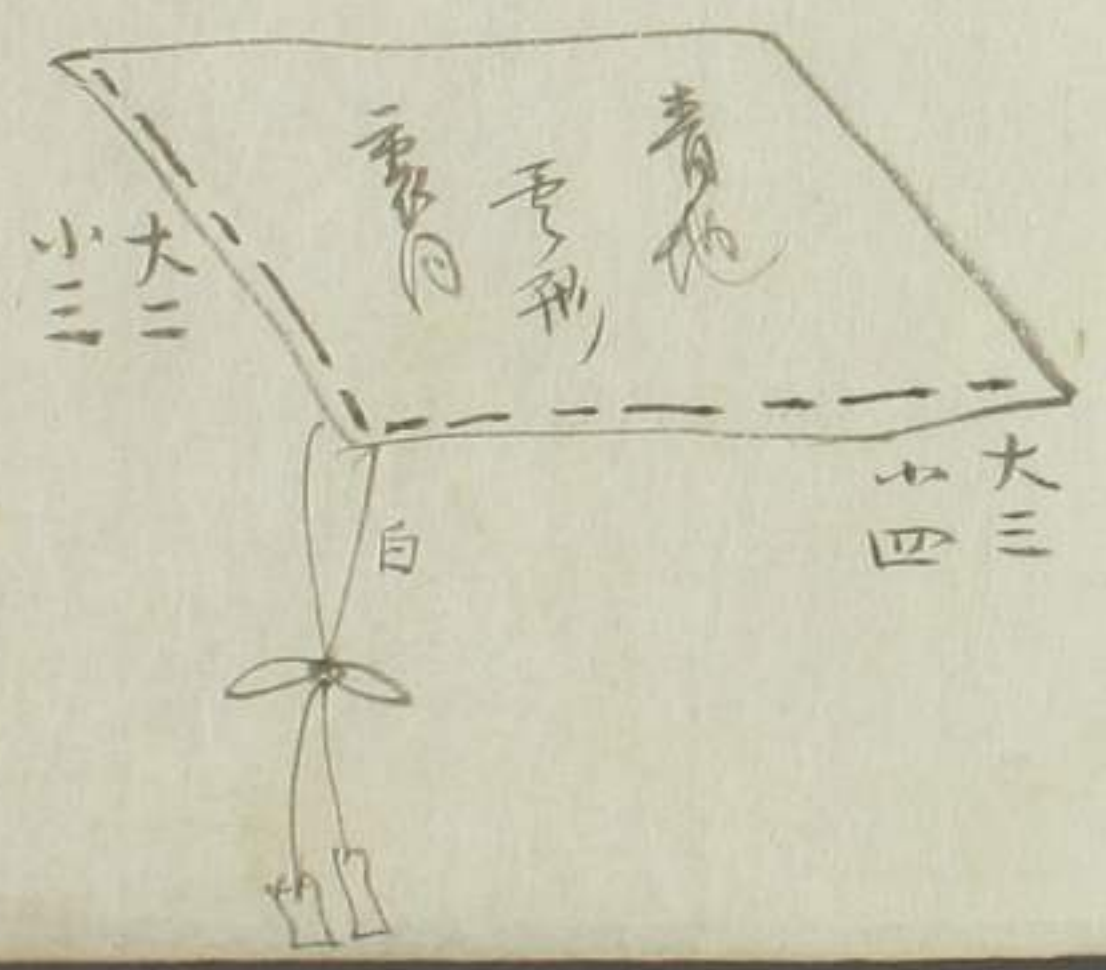
一 井上友負

正報町公道



一 路及机 花是机

表及下子系



一 世代集

一 古今 一後撰 一拾遺 一後拾遺 一訶花  
 一金葉 一千載 一新古今  
 右八代集  
 一新初撰 一後後撰 一後古今 一後拾遺  
 一新後撰 一玉葉 一後千載 一後拾遺  
 一新初撰 一新千載 一新拾遺 一新後拾遺  
 一新後集  
 九十三代集







一運斤方五寸

一五寸井一丈尺五寸押一丈尺五寸付一丈尺五寸

一付一丈尺五寸

一丈内五寸尺五寸圖

一那一丈尺五寸

一一丈尺五寸方一丈尺五寸内一丈尺五寸方一丈尺五寸部

一一丈尺五寸方一丈尺五寸内一丈尺五寸方一丈尺五寸部

一南一丈尺五寸部一丈尺五寸

一觀一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一一丈尺五寸部一丈尺五寸

一基一丈尺五寸寸法

一一丈尺五寸部一丈尺五寸





